

0001 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：基礎

リスクアセスメントの進め方として、最も適切なものはどれか。

- ア．災害が起きた後だけ原因を調べ、事前には危険源を洗い出さない。
- イ．危険性・有害性を特定し、リスクを見積もって優先度を決め、低減措置を検討・実施する。
- ウ．作業者の経験だけで危険度を決め、作業条件は確認しない。
- エ．危険源を特定したら、リスクの大きさに関係なくすべて同じ対策を行う。

答え・解説 正答：イ

ア：リスクアセスメントは災害発生前に危険源を把握して予防する考え方である。

イ：正しい。危険源の特定、リスクの見積り・評価、低減措置の検討という流れで進める。

ウ：設備・作業方法・環境等の条件を具体的に確認して評価する必要がある。

エ：リスクの大きさや優先度に応じて対策を検討する。

総合解説：リスクアセスメントは、危険源を把握してリスクの大きさを評価し、優先順位を付けて低減措置へ結び付ける予防的な安全管理である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0002 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：基礎

安全管理における「危険性又は有害性（ハザード）」の説明として、最も適切なものはどれか。

- ア．災害が実際に発生した後の損害額だけをいう。
- イ．負傷や疾病を生じさせる潜在的な根源・要因をいう。
- ウ．作業者が感じる不安の強さだけをいう。
- エ．対策後に残った危険を必ずゼロとみなす考え方をいう。

答え・解説 正答：イ

ア：ハザードは発生後の損害額ではなく、危険の源となる要因である。

イ：正しい。ハザードは災害を生じさせる潜在的な根源である。

ウ：主観的な不安だけでなく、機械・作業・環境等に存在する危険要因を扱う。

エ：対策後にも残留リスクが存在する場合がある。

総合解説：リスクはハザードによって生じる負傷・疾病の可能性と重篤度等を踏まえて評価する。用語を区別して管理することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0003 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：基礎

リスク低減措置の考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．最初から保護具だけで対応し、設備や作業方法の改善は検討しない。

イ．注意喚起の掲示だけで、重大な危険源も十分に管理できるとみなす。

ウ．費用が最も安い対策を、危険度に関係なく優先する。

エ．危険作業の廃止・変更や工学的対策を優先し、管理的対策や保護具はそれを補う形で検討する。

答え・解説 正答：エ

ア：保護具は重要だが、より上位の危険源除去や工学的対策を先に検討する。

イ：重大リスクでは物理的な隔離・設備改善等が必要となることがある。

ウ：対策はリスク低減効果を中心に合理的に選ぶ。

エ：正しい。危険源そのものをなくす・小さくする対策を優先し、個人防護にのみ依存しない。

総合解説：安全対策は、危険源の除去・代替、設備的な低減、作業管理、保護具等を段階的に検討し、可能な限り上位の対策を採用する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0004 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：基礎

作業開始前に行う危険予知（KY）活動の目的として、最も適切なものはどれか。

ア．その日の生産量だけを確認し、安全上の変化は扱わない。

イ．当日の作業条件に潜む危険を作業者間で共有し、具体的な安全行動を確認する。

ウ．事故が起きた後に責任者を定めることだけを目的とする。

エ．過去と同じ作業なら現場条件を見ずに定型文を読み上げる。

答え・解説 正答：イ

ア：KYは作業に潜む危険を把握する活動である。

イ：正しい。作業前に危険ポイントと対策を共有し、行動へつなげる。

ウ：事後責任ではなく事前予防が目的である。

エ：天候・人員・設備・周辺状況等の当日条件を踏まえることが重要である。

総合解説：KY活動はリスクアセスメントを日々の作業へ落とし込む実践手段の一つであり、現場条件に応じた危険と対策を共有する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0005 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：標準

施工途中で使用機械を小型バックホウから大型バックホウへ変更することになった。安全管理として最も適切な対応はどれか。

- ア．同じ種類の機械なので、能力が変わっても安全条件は変わらないとみなす。
- イ．工程が遅れないよう、変更内容を作業者へ知らせず使用を開始する。
- ウ．大型機械に変えれば安全性も必ず高くなるため、地盤確認を省く。
- エ．旋回範囲、地盤支持力、運行経路、周辺作業との干渉などを再確認し、リスクアセスメントと作業計画を見直す。

答え・解説 正答：エ

ア：機体寸法・重量・旋回範囲等の変化がリスクに影響する。

イ：関係者への周知が必要である。

ウ：重量増加により地盤沈下・転倒等のリスクが増す場合がある。

エ：正しい。機械能力や作業範囲が変わるため、既存の安全条件をそのまま適用しない。

総合解説：機械・工法・人員・作業区域等を変更した場合は、新たな危険が生じていないかを再評価し、必要な対策・作業計画・周知を更新する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0006 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：標準

発生頻度は低いが、発生すると死亡につながる可能性がある架空線接触リスクの扱いとして、最も適切なものはどれか。

- ア．頻度が低ければ重大性に関係なく対策不要とする。
- イ．一度も事故が起きていない現場では危険源として扱わない。
- ウ．発生頻度だけでなく結果の重篤度も考慮し、重大リスクとして優先的に低減措置を検討する。
- エ．作業者が慣れていれば感電・接触リスクは無視できる。

答え・解説 正答：ウ

ア：リスク評価では重篤度も考慮する。

イ：事故歴がなくても危険源は存在し得る。

ウ：正しい。頻度が低くても結果が重大なら優先度が高くなる。

エ：習熟だけで危険源そのものはなくなるしない。

総合解説：リスク評価は「起こりやすさ」だけでなく「起きた場合の重篤度」を考慮する。死亡・重傷につながるリスクは特に慎重に扱う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0007 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：標準

転落防止柵を設けた後も、資材搬入口を一時的に開放する時間帯がある。最も適切な管理はどれか。

ア．柵を一部設けた時点でリスクはゼロとみなし、開放時の対策は不要とする。
イ．搬入口の位置を作業者が知っていればよく、表示や周知は行わない。
ウ．開放時に残る転落リスクを明示し、監視・立入制限・開口部閉鎖手順など追加措置を定めて関係者に周知する。
エ．開放中は作業を急がせ、滞在時間を短くするだけで対応する。

答え・解説 正答：ウ

ア：開放時には危険が再び生じるため追加措置が必要である。
イ：関係者全体に危険と手順を周知する必要がある。
ウ：正しい。対策後に残るリスクを把握し、追加管理を行う。
エ：時間短縮だけでなく物理的・管理的対策を組み合わせるべきである。
総合解説：対策後にも残る危険を残留リスクとして管理し、必要な追加措置や周知を行うことが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0008 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：標準

作業員がバックホウの旋回範囲へ入りかけたが、接触前に気付いた。適切な対応はどれか。

ア．事故になっていないので記録も対策も不要とする。
イ．本人の注意不足だけを指摘し、作業環境は変えない。
ウ．接触しそうになった場所を隠し、他の作業員へ知らせない。
エ．ヒヤリハットとして原因を共有し、立入区域、誘導方法、合図、作業動線などを見直す。

答え・解説 正答：エ

ア：同じ条件が続けば実事故につながる可能性がある。
イ：動線・区画・誘導等の仕組み面も評価すべきである。
ウ：情報共有が再発防止に重要である。
エ：正しい。無災害で終わっても潜在的な事故要因として改善に使う。
総合解説：ヒヤリハットは事故の前兆となる危険情報である。個人の注意だけでなく、設備・区画・手順・指揮方法を改善する材料にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0009 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：標準

園路掘削と資材搬入を同じ狭い区域で同時に行う計画である。最も適切な安全検討はどれか。

ア．重機旋回・搬入車両・歩行者・掘削端部の位置関係を整理し、時間分離や動線分離を含めてリスクを低減する。

イ．各作業が単独で安全なら、同時施工時の干渉は考えない。

ウ．狭いほど作業者同士が見えるため、区画は不要とする。

エ．工程短縮を優先し、危険があってもすべて同時作業とする。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。同時作業では単独作業にはない干渉リスクを評価する必要がある。

イ：同時施工では接触・転落等の新たな危険が生じる。

ウ：視認だけで接触リスクを十分に管理できない。

エ：工程と安全を調整し、必要なら時間分離等を行う。

総合解説：複数工種の同時作業では、人・機械・資材・開口部等の干渉を評価し、作業時間や区域を分けることでリスクを低減する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0010 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：標準

朝のKY後に強風注意報が発表され、樹木の吊り込み作業を予定している。最も適切な対応はどれか。

ア．風の強さと作業条件を再評価し、吊り荷の振れ等による危険が高い場合は作業中止・延期を判断する。

イ．朝のKYを終えているので、その後の天候変化は考慮しない。

ウ．予定工程を守るため、吊り荷を大きくすれば風の影響が減ると考える。

エ．強風時は合図を省略して作業時間を短縮する。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。作業開始後も気象変化に応じてリスクを再評価する。

イ：現場条件は変化するため再評価が必要である。

ウ：大きな吊り荷は風荷重を受けやすい。

エ：合図省略は危険を増す。

総合解説：リスクアセスメントは一度実施して終わりではなく、天候・作業内容・設備等の変化に応じて見直す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0011 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：応用

供用中の公園で、歩行者通路に隣接して高所剪定を行う。最も適切なリスク低減策はどれか。

ア．作業区域を物理的に分離し、落下物対策、必要な監視・誘導、作業方法の見直しを組み合わせ、第三者の立入りを防ぐ。

イ．作業員が下を見ながら剪定すれば、通路を開放したままでよい。

ウ．歩行者に「自己責任」と掲示すれば立入制限は不要である。

エ．剪定枝を小さく切れば落下しても問題ないとして、監視を行わない。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。重大な落下物リスクには複数の防護層を組み合わせる。

イ：注意だけでは第三者への落下物リスクを十分に低減できない。

ウ：施工者側で公衆災害防止措置を講じる必要がある。

エ：小片でも第三者に危害を与える可能性がある。

総合解説：重大なリスクには、危険区域の分離、落下物防止、作業方法、監視・誘導、情報提供など複数の対策を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0012 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：応用

リスクアセスメントで高リスクとされたバックホウ接触危険に対し、立入柵と誘導者を追加した。次に行うべきこととして最も適切なものはどれか。

ア．対策を一つ追加した時点で、安全性の評価を終了する。

イ．誘導者を配置したので、運転者への合図方法の周知は不要とする。

ウ．対策後のリスクを再評価し、残留リスクが許容できるか確認して作業者へ周知する。

エ．立入柵があるため、作業区域変更時も位置を見直さない。

答え・解説 正答：ウ

ア：対策後のリスクが十分低下したか確認する必要がある。

イ：合図方法を定めて運転者・誘導者で共有する必要がある。

ウ：正しい。対策の実施だけでなく、その効果と残留リスクを確認する。

エ：作業範囲が変われば柵や誘導方法も見直す。

総合解説：リスク低減措置の実施後は、その効果を評価して残留リスクを確認し、必要なら追加対策へつなげる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0013 安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：基礎

車両系建設機械を用いる作業計画に含める事項として、最も適切なものはどれか。

ア．運転者の私的な通勤経路だけを示す。

イ．使用する機械の種類・能力、運行経路、作業方法を示す。

ウ．作業後の洗車方法だけを示し、作業方法は記載しない。

エ．機械の色と製造会社だけを示す。

答え・解説 正答：イ

ア：作業場所での機械の運行経路が重要である。

イ：正しい。現行の労働安全衛生規則で作業計画に示す事項である。

ウ：作業方法を明確にする必要がある。

エ：安全計画には能力・運行経路・作業方法等が必要である。

総合解説：車両系建設機械では、現地の地形・地質等を調査し、その条件に適合する作業計画を作成して関係者へ周知する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0014 安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：基礎

重機作業で誘導者を配置する場合の合図について、最も適切なものはどれか。

ア．誘導者ごとに自由な合図を用い、運転者が推測する。

イ．騒音が大きい場合は合図を省略する。

ウ．あらかじめ一定の合図を定め、運転者はその合図に従う。

エ．運転者が熟練者なら誘導者の合図に従う必要はない。

答え・解説 正答：ウ

ア：合図の不統一は誤操作の原因となる。

イ：騒音下では視覚合図等、確実な伝達方法を確保する。

ウ：正しい。合図の統一により誤認を防止する。

エ：誘導者を置いた場合は合図に従う必要がある。

総合解説：誘導を行う作業では、合図者・運転者・関係作業仲間間で合図方法を統一し、誰が指揮するかを明確にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0015 安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：基礎

複数の作業班が同一区域で作業する場合、作業指揮上最も重要な事項はどれか。

ア．指揮命令系統と作業間の調整方法を明確にし、関係者へ周知する。

イ．各班が独自判断で作業し、全体の調整者を置かない。

ウ．工程が同じなら、作業範囲の区分を決めない。

エ．経験年数の長い作業者がその都度別々の指示を出す。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。指示の重複や作業干渉を避ける。

イ：同時作業の干渉や指示競合が起こりやすい。

ウ：作業区域や時間の調整が必要である。

エ：指揮系統を一本化することが重要である。

総合解説：現場では責任者・作業指揮者・誘導者等の役割を明確にし、同時作業の連絡調整を行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0016 安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：標準

傾斜地でバックホウを使用する作業計画として、最も適切なものはどれか。

ア．地形・地盤を調査し、転倒・転落を防ぐ運行経路、必要な幅員、誘導方法等を定める。

イ．平地用の作業計画をそのまま適用し、傾斜は考慮しない。

ウ．路肩ぎりぎりを最短経路とし、誘導者は置かない。

エ．作業効率を上げるため、機械の安定度を超える姿勢で使用する。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。傾斜地では転倒・路肩崩壊等の危険を考慮する。

イ：現地条件に適応した計画が必要である。

ウ：転落の危険がある場合は路肩対策や誘導等が必要である。

エ：構造上定められた安定度等を守る必要がある。

総合解説：車両系建設機械の作業計画は、地形・地質・路肩・勾配等を踏まえて転倒・転落・接触を防ぐ内容とする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0017 安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：標準

施工中に作業区域と搬入経路を変更した。作業指揮として最も適切な対応はどれか。

ア．図面だけ変更し、現場作業者には旧経路のまま作業させる。

イ．変更は施工管理者だけが知っていればよい。

ウ．搬入経路変更後も、旧位置に誘導者を固定する。

エ．変更後の危険箇所・誘導位置・合図・立入区域を見直し、関係者へ作業開始前に周知する。

答え・解説 正答：エ

ア：認識の不一致が事故につながる。

イ：運転者・誘導者等への周知が必要である。

ウ：誘導位置も新たな危険に合わせて見直す。

エ：正しい。計画変更に伴うリスクと指揮方法を更新する。

総合解説：作業計画は現場の変更に合わせて改訂し、変更点を関係者に確実に周知してから作業を再開する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0018 安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：標準

強風により吊り荷が大きく振れ始めた。作業責任者の対応として最も適切なものはどれか。

ア．予定数量を終えるまで作業を続ける。

イ．合図者だけを退避させ、クレーン作業は継続する。

ウ．作業を一旦停止し、風の状況と安全条件を確認して再開可否を判断する。

エ．吊り荷の下に作業者を配置し、手で振れを止める。

答え・解説 正答：ウ

ア：危険が顕在化しているため停止判断が必要である。

イ：吊り荷の振れによる危険は解消しない。

ウ：正しい。危険が増大した場合は工程より安全を優先する。

エ：吊り荷の下への立入りは危険である。

総合解説：作業責任者は気象・設備・周辺状況の変化を監視し、安全条件を満たさない場合は作業を止めて再評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0019 安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：標準

新たな協力会社の作業員が途中から現場に入る。最も適切な対応はどれか。

- ア．現場固有の危険箇所、立入禁止区域、避難方法、合図・連絡方法等を作業前に周知する。
- イ．他現場経験があれば現場説明を省略する。
- ウ．作業開始後に危険箇所を各自で覚えてもらう。
- エ．管理者だけに説明し、実際の作業員へ伝えない。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。一般的な経験があっても現場固有条件の共有が必要である。

イ：現場ごとの危険源・ルールは異なる。

ウ：作業前に必要情報を提供する。

エ：作業に従事する本人への周知が必要である。

総合解説：新規入場時は、現場固有の安全ルールや危険区域、緊急時対応等を事前に共有し、指揮系統を理解させる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0020 安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：標準

公園出入口付近で大型車両を後退させる。誘導者の配置として最も適切なものはどれか。

- ア．車両直後の死角内に立ち、車体を手で叩いて誘導する。
- イ．運転者から見えない植栽の陰から合図する。
- ウ．車両と歩行者の双方を確認でき、運転者から合図を認識できる安全な位置に配置する。
- エ．歩行者通路を背にして、車両だけを見る。

答え・解説 正答：ウ

ア：車両にひかれる危険がある。

イ：合図が伝わらず危険である。

ウ：正しい。誘導者自身の安全と確認範囲を確保する。

エ：第三者の接近も確認する必要がある。

総合解説：誘導者は車両の進路・第三者・障害物を確認でき、運転者と確実に意思疎通できる安全位置に立つ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0021 安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：応用

供用公園内で、クレーンによる樹木吊り込みとバックホウ掘削を近接して行う。最も適切な指揮計画はどれか。

- ア．クレーン班と掘削班が互いの作業を確認せず独立して進める。
- イ．各作業の責任者・合図者・立入区域を明確にし、吊り荷経路と重機旋回範囲が干渉しないよう時間・区域を調整する。
- ウ．吊り荷の下をバックホウの最短経路として使用する。
- エ．合図者を一人にする代わりに、どちらの機械にも同時に異なる合図を出させる。

答え・解説 正答：イ

ア：相互干渉による重大事故のおそれがある。

イ：正しい。同時作業の危険を全体で調整している。

ウ：吊り荷落下時の危険が大きい。

エ：誤認を招くため役割と指揮系統を整理する必要がある。

総合解説：複数機械を近接使用する場合は、作業区域・時間・指揮系統・合図を統合し、干渉を物理的・時間的に排除する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0022 安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：応用

掘削中に不明な埋設管を損傷し、漏えいが疑われる。初動として最も適切なものはどれか。

- ア．工期への影響を避けるため、漏えいの有無を作業員だけで調べながら掘削を続ける。
- イ．埋設物管理者に知らせず、その場で応急補修して埋め戻す。
- ウ．作業を停止し、危険区域から退避・立入規制を行い、事前に定めた連絡体制で管理者・関係機関へ通報する。
- エ．原因確認のため、火気を近づけて漏えいを確認する。

答え・解説 正答：ウ

ア：二次災害の危険があるため停止・退避が優先である。

イ：管理者との連絡・協議が必要である。

ウ：正しい。二次災害防止を優先し、緊急連絡体制を機能させる。

エ：可燃性ガス等の場合、重大事故につながる。

総合解説：緊急時は作業停止、退避・立入規制、通報、二次災害防止を優先し、事前に定めた連絡先・役割に従って対応する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0023 安全衛生 > 保護具・立入管理 | 難易度：基礎

物体の飛来・落下のおそれがある掘削作業での保護具として、最も適切なものはどれか。

ア．帽子の代わりにタオルだけを頭に巻く。

イ．重機運転者だけ着用し、掘削部で作業する者は着用しない。

ウ．損傷した保護帽でも外観が残っていれば使用する。

エ．作業に適した保護帽を正しく着用する。

答え・解説 正答：エ

ア：保護帽の代替にはならない。

イ：危険にさらされる作業者が適切に着用する必要がある。

ウ：保護具は使用前に状態を確認し、不良品を使用しない。

エ：正しい。明り掘削では飛来・落下危険に対する保護帽の着用が規定されている。

総合解説：保護具は作業の危険に応じて選び、正しく装着し、点検・交換まで含めて管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0024 安全衛生 > 保護具・立入管理 | 難易度：基礎

バックホウの旋回範囲で接触事故を防ぐため、最も適切な措置はどれか。

ア．作業員が機械の音を聞いて避けることだけに任せる。

イ．旋回範囲を資材置場として利用する。

ウ．危険箇所への立入りを禁止し、必要な場合は誘導者を配置して管理する。

エ．運転者が熟練していれば立入管理は不要とする。

答え・解説 正答：ウ

ア：死角・騒音等があるため不十分である。

イ：人の立入りが増え、接触リスクが高まる。

ウ：正しい。接触危険のある範囲への立入りを防止する。

エ：死角等の危険は熟練だけでなくならない。

総合解説：車両系建設機械では、接触危険区域への立入禁止や誘導により、人と機械の分離を図る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0025 安全衛生 > 保護具・立入管理 | 難易度：標準

高さが6.75mを超える箇所で墜落制止用器具を使用する場合、最も適切なものはどれか。

ア．フルハーネス型の墜落制止用器具を使用する。

イ．一本つり胴ベルト型だけを使用する。

ウ．U字つり用胴ベルトだけを墜落制止用として使用する。

エ．ロープを腰に巻けば墜落制止用器具として扱える。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。6.75mを超える高さではフルハーネス型が必要である。

イ：6.75mを超える箇所ではフルハーネス型が必要である。

ウ：U字つり用はワークポジショニング用であり、墜落制止用器具そのものではない。

エ：規格に適合した器具を使用する必要がある。

総合解説：墜落制止用器具は高さ・取付位置・自由落下距離・使用者質量等に応じて適切なものを選定する。6.75m超ではフルハーネス型を使用する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0026 安全衛生 > 保護具・立入管理 | 難易度：標準

刈払機で飛石のおそれがある作業の保護具・安全対策として、最も適切なものはどれか。

ア．長袖を着れば飛石対策は十分で、目の保護は不要とする。

イ．飛石は小さいので、周囲の人の立入りを制限しない。

ウ．保護具を着ける代わりに、刈払機を通常より高速回転させる。

エ．目・顔等を保護する装備を用い、周囲の立入範囲も管理する。

答え・解説 正答：エ

ア：飛来物から目・顔を守る対策が必要である。

イ：飛石は第三者にも危害を与える可能性がある。

ウ：危険を増大させる可能性がある。

エ：正しい。個人防護と第三者・他作業者の立入管理を組み合わせる。

総合解説：保護具は危険源に合った種類を選び、保護具だけに依存せず、立入管理や作業方法改善と組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0027 安全衛生 > 保護具・立入管理 | 難易度：標準

墜落制止用器具の管理として、最も適切なものはどれか。

- ア．一度購入すれば、外観が汚れても点検せず継続使用する。
- イ．墜落を制止した器具でも見た目が同じなら必ず再使用する。
- ウ．使用前に損傷・摩耗・接統部等を点検し、異常や墜落時の衝撃を受けた器具は適切に使用停止・交換判断する。
- エ．ランヤードだけ確認し、フックやバックルは点検しない。

答え・解説 正答：ウ

ア：摩耗・損傷等の点検が必要である。

イ：大きな衝撃を受けた器具は使用継続すべきではない。

ウ：正しい。器具の性能を維持するため点検・保守・記録が重要である。

エ：構成部品全体を確認する必要がある。

総合解説：墜落制止用器具は選定・装着に加え、使用前点検、保守、保管、使用履歴の管理が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0028 安全衛生 > 保護具・立入管理 | 難易度：標準

クレーンの吊り込み位置が変更され、吊り荷の通過範囲が広がった。立入管理として最も適切な対応はどれか。

- ア．新たな吊り荷経路に合わせて立入禁止区域・監視位置・表示を見直し、関係者へ周知する。
- イ．最初に設けたコーンの位置を変更せず、その外側へ吊り荷を通す。
- ウ．吊り荷の通過時だけ口頭で注意すれば、区画は不要とする。
- エ．作業員だけ立入禁止とし、公園利用者は通してよい。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。作業範囲変更に応じて区域管理を更新する。

イ：実際の危険範囲と区画が一致しなくなる。

ウ：物理的区画や監視等を組み合わせることが望ましい。

エ：第三者も同様に危険から保護する必要がある。

総合解説：立入禁止区域は固定的に考えず、機械位置・吊り荷経路・作業内容の変化に合わせて見直す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0029 安全衛生 > 保護具・立入管理 | 難易度：応用

深い掘削箇所の端部で作業する計画で、管理者が「全員がフルハーネスを着けるので手すり等は不要」と提案した。最も適切な判断はどれか。

ア．フルハーネスを着ければ、取付設備がなくても安全である。

イ．まず作業床・手すり・覆い等による墜落防止を検討し、必要に応じて墜落制止用器具を併用する。

ウ．保護具を着ける作業者は墜落しないため、開口部表示も不要である。

エ．手すり等は作業効率を下げるため、重大な墜落リスクでも設けない。

答え・解説 正答：イ

ア：適切な取付設備と落下距離の管理が必要である。

イ：正しい。個人防護具だけに依存せず、設備的な墜落防止を優先する。

ウ：保護具の使用中でも危険区域の管理は必要である。

エ：墜落防止設備による危険源低減を検討する必要がある。

総合解説：墜落防止は、作業床・手すり・覆いなどの設備的対策を優先し、必要に応じて墜落制止用器具等を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0030 安全衛生 > 保護具・立入管理 | 難易度：応用

供用中の公園で高所剪定と刈払機作業を同時に行う。最も適切な立入管理はどれか。

ア．二つの作業の間だけ区画し、外周の歩行者通路は開放する。

イ．作業員が保護具を着けているので、公園利用者への立入規制は不要とする。

ウ．落下枝範囲と飛石範囲をそれぞれ評価し、必要な安全余裕を含めて区画し、歩行者の代替動線と監視を確保する。

エ．危険区域を示す看板だけ置き、幼児等が入っても監視しない。

答え・解説 正答：ウ

ア：落下枝や飛石は作業区域外へ及ぶ可能性がある。

イ：保護具は第三者を保護しない。

ウ：正しい。作業ごとの危険範囲を重ね合わせて第三者を保護する。

エ：供用公園では物理的区画・監視・誘導等が必要となる。

総合解説：第三者の立入管理では、危険が及ぶ範囲を作業ごとに評価し、区画・監視・案内・迂回を組み合わせさせて実効性を確保する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0031 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：基礎

足場における高さ2m以上の作業場所について、原則として必要な措置はどれか。

ア．作業者が熟練していれば作業床は不要とする。

イ．所定の要件を満たす作業床を設ける。

ウ．幅10cm程度の板があれば作業床として十分とする。

エ．高所では必ず脚立だけを使用する。

答え・解説 正答：イ

ア：熟練度だけで墜落危険はなくなる。

イ：正しい。高さ2m以上の足場作業場所には原則として作業床が必要である。

ウ：作業床には幅等の基準がある。

エ：作業条件に適した足場・作業床等を設ける。

総合解説：足場の高所作業では、まず安定した作業床を確保し、墜落防止設備とあわせて安全な作業環境を整える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0032 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：基礎

つり足場を除く足場の作業床の幅として、労働安全衛生規則上の原則に適合するものはどれか。

ア．幅20 cmの一枚板でも通行できれば規則上の作業床幅を満たすとする。

イ．手すりを設けていれば、作業床幅30 cmでも規則上の基準を満たすとする。

ウ．つり足場を除く足場では、作業床の幅を原則40 cm以上確保する。

エ．つり足場の扱いをそのまま適用し、一般の足場には作業床幅の基準がないとする。

答え・解説 正答：ウ

ア：誤り。一般の足場の作業床幅の原則基準を満たさない。

イ：誤り。手すりの有無とは別に作業床幅の基準がある。

ウ：正しい。つり足場を除き、作業床の幅は原則40 cm以上である。

エ：誤り。一般の足場にも作業床幅の基準がある。

総合解説：足場の作業床は、幅だけでなく床材の支持・隙間・固定・墜落防止設備等を総合して安全を確保する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0033 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：基礎

高さ5m以上の足場の組立て・解体・変更（対象外となるものを除く）について、原則必要な安全管理はどれか。

- ア．作業員が2人以上いれば作業主任者は不要とする。
- イ．施工管理者であれば資格に関係なく自動的に作業主任者となる。
- ウ．所定の技能講習を修了した者から足場の組立て等作業主任者を選任する。
- エ．完成後の使用時だけ作業主任者を選任し、組立て時は不要とする。

答え・解説 正答：ウ

ア：人数で選任義務がなくなるわけではない。

イ：所定の資格要件を満たす者から選任する。

ウ：正しい。高さ5m以上の足場等の組立て等は作業主任者選任対象となる。

エ：組立て・解体・変更作業が対象である。

総合解説：高所足場の組立て等では、作業主任者が材料・器具点検、作業方法・配置、進行監視、保護具使用状況等を管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0034 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：基礎

脚立の使用条件として、労働安全衛生規則に照らして最も適切なものはどれか。

- ア．脚と水平面との角度は90度に近いほど安定する。
- イ．片脚が沈んでも、作業者が体重で調整すれば使用できる。
- ウ．丈夫で損傷がなく、脚と水平面との角度を75度以下とし、折りたたみ式は角度を保持する金具等を備える。
- エ．著しい腐食があっても踏み面が残っていれば使用する。

答え・解説 正答：ウ

ア：75度以下とする要件がある。

イ：安定した設置面を確保する必要がある。

ウ：正しい。脚立には構造・損傷・角度・踏み面等の要件がある。

エ：著しい損傷・腐食のあるものは使用しない。

総合解説：脚立は簡便だが、設置条件・構造・損傷状態・作業姿勢を確認し、無理な高所作業には適切な足場等を選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0035 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：標準

強い雨風の後に足場を使用する。作業開始前の対応として最も適切なものはどれか。

ア．前日に異常がなければ点検せず使用する。

イ．点検者を定め、床材、緊結部、墜落防止設備、脚部沈下、壁つなぎ等を点検し、異常を補修する。

ウ．手すりだけ見て、脚部や緊結部は確認しない。

エ．点検で緩みを見つけても、昼休みに補修するまで使用する。

答え・解説 正答：イ

ア：悪天候で状態が変わる可能性がある。

イ：正しい。悪天候後は足場の状態変化を確認する。

ウ：足場全体の安全要素を点検する必要がある。

エ：危険のおそれがあれば使用前に補修する。

総合解説：足場は組立て・変更後や悪天候・地震後等に点検し、異常を認めた場合は速やかに修理してから使用する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0036 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：標準

足場上へ石材を仮置きする場合の管理として、最も適切なものはどれか。

ア．床板がたわまなければ最大積載荷重を超えてもよい。

イ．足場の最大積載荷重を確認・表示し、その範囲内で荷重が局部集中しないよう配置する。

ウ．重い材料ほど一か所へ集中させると安定する。

エ．積載荷重は作業員の体重だけを対象とし、材料は含めない。

答え・解説 正答：イ

ア：定めた最大積載荷重を守る必要がある。

イ：正しい。積載荷重の超過や集中荷重を避ける。

ウ：局所的な過大荷重を避ける。

エ：作業時の荷重を総合して管理する。

総合解説：足場は構造・材料に応じて最大積載荷重を定め、見やすい場所に表示し、作業者へ周知する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0037 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：標準

高所作業床に資材搬入口として一時的な開口部を設ける。最も適切な措置はどれか。

ア．搬入口なので常時開放し、表示だけで対応する。

イ．資材搬入者だけが場所を知っていればよく、他作業者への周知は不要とする。

ウ．開口部の直下を休憩場所として使用する。

エ．使用時以外は手すり・覆い等で閉鎖し、使用中は墜落制止用器具や監視等、必要な墜落防止措置を講じる。

答え・解説 正答：エ

ア：物理的な墜落防止が必要である。

イ：誤侵入防止のため周知・表示が必要である。

ウ：墜落・落下物の危険がある。

エ：正しい。開口状態に応じて墜落危険を管理する。

総合解説：開口部は手すり・覆い等で保護し、やむを得ず開放する場合は作業手順・保護具・監視等を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0038 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：標準

足場の組立て・解体作業中の区域管理として、最も適切なものはどれか。

ア．近道になるため、他職種の作業員も足場下を自由に通行させる。

イ．材料は高所から直接投げ下ろし、時間を短縮する。

ウ．作業区域の表示は完成後に設置する。

エ．関係作業者以外の立入りを禁止し、材料の上げ下ろしには安全な方法を用いる。

答え・解説 正答：エ

ア：落下物等の危険がある。

イ：落下物による危険を防ぐ設備・方法が必要である。

ウ：組立て・解体中こそ立入管理が必要である。

エ：正しい。組立て・解体中は墜落・落下物の危険が高い。

総合解説：足場の組立て等では、作業区域への立入禁止、悪天候時の中止、材料受渡し方法、墜落制止用器具等を適切に管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0039 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：標準

フルハーネス型墜落制止用器具を使用する際のフック取付位置として、最も適切な考え方はどれか。

- ア．できるだけ足元より低い位置へ掛け、落下距離を大きくする。
- イ．手すりなら強度を確認せずどこへでも掛ける。
- ウ．ランヤードが届かなければ、複数本を結んで延長する。
- エ．墜落時の自由落下距離をできるだけ小さくでき、十分な強度を有する取付設備を選ぶ。

答え・解説 正答：エ

ア：墜落時の落下距離・衝撃が大きくなる。

イ：取付設備の強度・用途を確認する必要がある。

ウ：規格・使用方法に従い適切な器具を使用する。

エ：正しい。取付位置・強度・落下距離を考慮する。

総合解説：墜落制止用器具は、作業高さ、取付設備の高さ・強度、自由落下距離、ショックアブソーバ等を考慮して使用する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0040 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：標準

建物・構造物沿いに足場を設ける際、十分な幅を確保できる場合の考え方として最も適切なものはどれか。

- ア．幅が十分あっても、常に一側足場を最優先とする。
- イ．足場形式は安全性に関係しないので最も安いものだけで決める。
- ウ．作業床・手すり等を確実に設けられる、より安定した足場形式を優先して検討する。
- エ．高所ほど作業床を狭くして材料を減らす。

答え・解説 正答：ウ

ア：足場形式は安全性と現場条件から選定する。

イ：墜落防止・作業性・安定性を考慮する必要がある。

ウ：正しい。施工条件が許す場合は墜落防止性能の高い足場を選択する。

エ：作業床の安全性を確保する必要がある。

総合解説：足場形式は敷地条件・作業内容・高さ・荷重等を踏まえ、安全な作業床と墜落防止設備を確保できるものを選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0041 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：標準

移動はしごを使用する場合の措置として、最も適切なものはどれか。

ア．上端・下端の固定やすべり止め等により、転位を防止して使用する。

イ．支持面が濡れていても固定せず使用する。

ウ．はしご上で身体を大きく横へ乗り出し、設置位置を変えず作業する。

エ．上端が不安定でも、作業者が足で押さえればよい。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。はしごの滑動・転倒を防ぐ必要がある。

イ：滑動の危険が高い。

ウ：バランスを崩し転落する危険がある。

エ：確実な設置・固定が必要である。

総合解説：はしごは簡便な昇降設備だが、設置角度・固定・支持面・使用姿勢を管理し、長時間作業にはより適切な作業床を検討する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0042 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：応用

高さ7m付近の樹木枝を継続的に剪定する。脚立から身を乗り出す案と高所作業車等を用いる案がある。最も適切な判断はどれか。

ア．作業高さ・範囲・地盤・周辺条件を評価し、安定した作業床を確保できる高所作業車等を優先して検討する。

イ．脚立の最上段に立てば作業範囲が広がるので最も安全である。

ウ．高所作業では作業床より保護具だけを優先する。

エ．地盤が軟弱でも高所作業車の安定性は変わらない。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。継続的な高所作業では安定した作業床を確保することが重要である。

イ：不安定姿勢となり墜落リスクが高い。

ウ：設備的な墜落防止を優先する。

エ：アウトリガー等の支持地盤条件を確認する必要がある。

総合解説：高所作業の方法選定では、作業床確保を優先し、機械の安定性・周囲障害・墜落制止用器具等を総合して安全な方法を選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0043 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：応用

大雨後、足場の一部で脚部周辺の地盤が軟化し、壁つなぎにも緩みが見られた。最も適切な対応はどれか。

- ア．床板が水平なら、そのまま使用する。
- イ．壁つなぎだけ締め直し、地盤軟化は無視する。
- ウ．足場の使用を停止し、脚部沈下・緊結部・壁つなぎ等を点検・補修し、安全確認後に使用する。
- エ．作業者を減らせば足場の点検は不要とする。

答え・解説 正答：ウ

ア：脚部・壁つなぎの異常は倒壊につながる。

イ：脚部沈下も評価・対策が必要である。

ウ：正しい。複数の不安定要因があり、使用前に是正が必要である。

エ：異常そのものを是正する必要がある。

総合解説：足場は地盤・脚部・緊結部・補強材・墜落防止設備が一体で安定する。異常時は使用停止と点検・是正を優先する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0044 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：応用

歩行者通路の上方で足場を使用して作業する。最も適切な安全対策はどれか。

- ア．足場上の作業員が保護帽を着ければ、下の歩行者対策は不要とする。
- イ．落下物防止設備や立入・通行管理を行い、必要に応じて歩行者通路を安全な位置へ迂回させる。
- ウ．工具は小さいので落下防止措置を行わない。
- エ．通路を開放したまま、歩行者に上を見て歩くよう掲示するだけにする。

答え・解説 正答：イ

ア：保護帽は第三者の落下物危険をなくさない。

イ：正しい。作業者の墜落防止と第三者への落下物防止を両立する。

ウ：小物でも落下すれば危害を与える。

エ：施工側で物理的・運用的な防止措置を講じる必要がある。

総合解説：高所作業では作業者の墜落防止と同時に、下方の第三者・他作業者への落下物防止を計画する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0045 墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：基礎

掘削作業を開始する前の安全管理として、最も適切なものはどれか。

- ア．土質は掘ってみないと分からないので、事前調査は行わない。
- イ．地形、地質、地層、亀裂、含水、湧水、埋設物等を調査し、掘削方法や土止め計画へ反映する。
- ウ．掘削深さだけ決めれば、湧水や地層は考慮しない。
- エ．設計図に土質があれば現地条件との照合は不要とする。

答え・解説 正答：イ

ア：事前に得られる地盤・埋設物情報を確認する必要がある。

イ：正しい。崩壊や埋設物損傷を防ぐ基礎となる。

ウ：地山安定性に影響する要素を確認する。

エ：現地差異がある可能性を考慮する。

総合解説：掘削安全は、事前の地山・地下水・周辺荷重・埋設物調査を基に、掘削勾配や土止め、排水等を計画する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0046 墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：基礎

明り掘削の地山について、点検が特に必要な時期として最も適切なものはどれか。

- ア．完成検査時だけ点検する。
- イ．晴天が続けば一度も点検しなくてよい。
- ウ．地震後は地山が締まるため点検不要とする。
- エ．その日の作業開始前に加え、大雨の後や中震以上の地震の後などに状態を確認する。

答え・解説 正答：エ

ア：掘削中に地山状態は変化する。

イ：日々の作業開始前の点検が重要である。

ウ：地震により亀裂・緩みが生じる可能性がある。

エ：正しい。亀裂・含水・湧水等の変化を点検する。

総合解説：掘削地山は時間・降雨・地震・掘削進行により変化するため、所定の時期に点検して崩壊兆候を早期に把握する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0047 墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：基礎

掘削面の高さが2m以上となる地山の掘削作業で、原則必要な措置はどれか。

- ア．作業員のうち最年長者を資格に関係なく主任者とする。
- イ．バックホウを使う場合は掘削面の高さに関係なく作業主任者制度は適用されない。
- ウ．作業主任者は完成後の出来形確認だけを行う。
- エ．所定の技能講習修了者から地山の掘削作業主任者を選任する。

答え・解説 正答：エ

ア：所定の資格要件が必要である。

イ：対象となる掘削作業については選任が必要である。

ウ：作業方法決定・直接指揮・器具点検等の職務がある。

エ：正しい。対象作業では作業主任者の選任が必要である。

総合解説：地山掘削の作業主任者は、作業方法を決定し直接指揮するなど、崩壊・落下等の危険防止に重要な役割を持つ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0048 墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：標準

掘削溝の縁に掘削土を仮置きする場合の考え方として、最も適切なものはどれか。

- ア．地山の安定に影響する上載荷重や崩落・転落を考慮し、掘削端から安全な位置に置く。
- イ．土は軽いので掘削端ぎりぎりまで高く積む。
- ウ．作業員の通路を確保するため、掘削土を土止め支保工の切りばり上に積む。
- エ．掘削深さが深いほど、掘削土を縁へ集中させる。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。掘削端近くの荷重増加は崩壊を促進する場合がある。

イ：上載荷重や土砂落下の危険がある。

ウ：支保工に想定外の荷重を与える。

エ：地山安定性を悪化させる可能性がある。

総合解説：掘削周辺では、掘削土・資材・重機等による上載荷重を管理し、地山や土止めの安定を損なわない配置とする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0049 墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：標準

掘削中に湧水が増え、地山が軟化してきた。最も適切な対応はどれか。

- ア．作業を停止・安全確認し、排水方法や土止めの安定性を再評価して必要な補強を行う。
- イ．湧水量が増えた分だけ掘削速度を上げて早く終える。
- ウ．水をためた方が土圧が小さくなると考え、排水しない。
- エ．土止めの変位を確認せず、ポンプだけ追加する。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。水は地山安定性を低下させることがある。
- イ：危険が増している状況で作業継続は不適切である。
- ウ：地下水・湧水は崩壊要因となり得る。
- エ：排水とともに支保工・地山状態の確認が必要である。

総合解説：掘削中の湧水・降雨は地山崩壊や土止め変位の原因となるため、排水・補強・作業停止を含めて安全性を再評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0050 墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：標準

土止め支保工の点検として、最も適切なものはどれか。

- ア．地表から見える色だけを確認し、部材変位は測らない。
- イ．切りばりは設置後に変化しないので点検対象外とする。
- ウ．腐食していても太さが残っていれば無条件に使用する。
- エ．部材の損傷・変形・腐食・変位・脱落、切りばりの緊圧、接続部等を確認する。

答え・解説 正答：エ

- ア：変位・緩み等が重要である。
- イ：緊圧状態等を点検する。
- ウ：著しい損傷・腐食のある材料は使用しない。
- エ：正しい。支保工の安全性に直接関わる項目である。

総合解説：土止め支保工は、地山条件に適合する構造とし、施工中も部材・接続・切りばり等の状態を点検する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0051 墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：標準

歩行者や作業員が通る場所に深い掘削部がある。最も適切な措置はどれか。

ア．掘削部が見えるので、標識や囲いは不要とする。

イ．掘削端を資材置場にして人が近づけないようにする。

ウ．掘削端に丈夫な囲い・手すり等を設け、夜間を含めて視認できるようにして立入り・転落を防ぐ。

エ．作業員だけ注意し、第三者の通路は掘削端沿いに維持する。

答え・解説 正答：ウ

ア：夜間や注意散漫時に転落する危険がある。

イ：資材荷重や崩落の危険が増える。

ウ：正しい。作業者と第三者の転落防止を図る。

エ：公衆災害防止の観点から安全通路を確保する。

総合解説：掘削部では地山崩壊だけでなく転落危険も管理し、囲い・照明・通路分離などを設ける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0052 墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：標準

埋戻しに伴い土止め支保工を撤去する場合の考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．作業を早めるため、切りばりを先にすべて外してから埋め戻す。

イ．地山・埋戻しの安定を確認し、定めた手順と作業主任者の指揮のもとで段階的に撤去する。

ウ．撤去順序は作業者ごとに自由に決める。

エ．埋戻し材を入れれば支保工はいつ外しても安全とみなす。

答え・解説 正答：イ

ア：支保効果を急に失い崩壊する危険がある。

イ：正しい。支保工撤去は崩壊リスクが高い。

ウ：統一した手順と指揮が必要である。

エ：埋戻しの高さ・締固め・地山状態等を考慮する必要がある。

総合解説：土止め支保工の組立て・解体は地山安定に直結するため、計画した順序と作業主任者の指揮で実施する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0053 墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：応用

深い掘削溝の近くを大型ダンプが頻繁に通行し、降雨後に掘削面へ亀裂が見られる。最も適切な対応はどれか。

ア．亀裂が小さければ、ダンプの通行速度だけ上げて早く通過させる。

イ．雨が止んだので地山は自動的に元の強度へ戻ったとみなす。

ウ．掘削部の作業員に保護帽を着ければ地山崩壊対策は十分とする。

エ．作業・車両通行を一時停止し、地山亀裂・含水・上載荷重・土止めの必要性を再評価し、安全対策を講じる。

答え・解説 正答：エ

ア：振動・上載荷重による影響を評価すべきである。

イ：含水状態や亀裂を点検する必要がある。

ウ：崩壊そのものを防ぐ対策が必要である。

エ：正しい。複数の崩壊要因が重なっている。

総合解説：崩壊リスクは地質・水・亀裂・上載荷重・振動・掘削形状等が複合する。異常兆候があれば停止し、全体条件を再評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0054 墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：応用

既設ガス管に近接して深掘削を行う。最も適切な施工計画はどれか。

ア．図面上の位置だけを信頼し、確認掘削を行わず機械で一気に掘る。

イ．管がある側だけ土止めを外し、目視しやすくする。

ウ．埋設物管理者への連絡は損傷後に行う。

エ．埋設位置を管理者と確認し、試掘等で位置を特定したうえで、埋設管の防護と地山・土止めの安定を両立する施工方法を定める。

答え・解説 正答：エ

ア：実位置との差異がある可能性がある。

イ：地山安定を損なう。

ウ：施工前に協議・確認が必要である。

エ：正しい。埋設物損傷と掘削崩壊の両方を管理する。

総合解説：埋設物近接掘削では、位置確認・管理者協議・試掘・防護・土止め・緊急連絡を一体で計画する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0055 墜落・崩壊防止 > 揚重・クレーン | 難易度：基礎

クレーンで荷を吊り上げているときの立入管理として、最も適切なものはどれか。

ア．吊り荷が軽ければ、その下で作業してよい。

イ．ヘルメットを着けていれば吊り荷の真下を通行できる。

ウ．玉掛け者だけは吊り荷の真下に立ってよい。

エ．吊り荷の下や落下・振れにより危険が及ぶ範囲へ人を立ち入らせない。

答え・解説 正答：エ

ア：重量にかかわらず落下・振れによる危険がある。

イ：保護帽では吊り荷落下の重大危険を防げない。

ウ：合図・玉掛け作業でも危険範囲を避ける。

エ：正しい。吊り荷の落下・振れによる危害を防止する。

総合解説：揚重作業では吊り荷の落下・振れ・接触範囲を明確にし、人と吊り荷を分離することが基本である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0056 墜落・崩壊防止 > 揚重・クレーン | 難易度：基礎

クレーン作業で合図を行う場合、最も適切なものはどれか。

ア．周囲の誰でも自由に運転者へ合図してよい。

イ．騒音が大きいときは合図なしで運転者の判断に任せる。

ウ．合図方法と合図者を定め、運転者が確実に認識できる方法で指示する。

エ．荷が見えない位置では、運転者が推測して操作する。

答え・解説 正答：ウ

ア：指示が競合し誤操作の原因となる。

イ：無線・手信号等の確実な方法を確保する。

ウ：正しい。複数の指示が混在しないようにする。

エ：合図者・監視者等で視認情報を補う必要がある。

総合解説：揚重作業では合図者を明確にし、運転者と共通の合図方法を用いて確実な意思疎通を図る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0057 墜落・崩壊防止 > 揚重・クレーン | 難易度：標準

移動式クレーンを軟弱地盤で使用する場合の措置として、最も適切なものはどれか。

ア．地盤支持力を確認し、必要な敷板等でアウトリガー反力を安全に支持できるようにする。

イ．アウトリガーを少しだけ張り出せば地盤条件は無関係である。

ウ．片側アウトリガーを掘削端ぎりぎりへ設置する。

エ．吊り荷が軽い場合はアウトリガーを使用せず、タイヤだけで支えることを原則とする。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。不同沈下や転倒を防止する。

イ：支持条件が不十分だと転倒リスクがある。

ウ：掘削端の崩壊・沈下を考慮する必要がある。

エ：機種・作業条件に従い安定確保措置を講じる。

総合解説：移動式クレーンでは地盤、アウトリガー、作業半径、荷重等が安定性に関係する。地盤支持条件を事前に確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0058 墜落・崩壊防止 > 揚重・クレーン | 難易度：標準

偏心した石材を吊り上げる場合の玉掛けとして、最も適切な考え方はどれか。

ア．外形の中央だけを見て、重心は確認しない。

イ．荷の重心と吊り点、ワイヤロープ角度等を確認し、吊り上げ時に安定する方法を選ぶ。

ウ．荷が傾いたら作業員が手で下から支える。

エ．ワイヤロープ本数を増やせば、各ロープの状態や角度は確認不要とする。

答え・解説 正答：イ

ア：偏心荷では外形中心と重心が一致しないことがある。

イ：正しい。重心を誤ると荷が傾き・回転する。

ウ：吊り荷の近くで支えるのは危険である。

エ：ロープ強度・角度・掛け方を適切に確認する。

総合解説：玉掛けでは荷重、重心、吊り点、吊り具能力、角度、荷姿を確認し、荷の安定と吊り具の安全を確保する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0059 墜落・崩壊防止 > 揚重・クレーン | 難易度：標準

樹冠の大きい樹木をクレーンで吊る際、風が強くなってきた。最も適切な判断はどれか。

ア．吊り荷の受風面積と振れを考慮し、安全条件を超えるおそれがあれば作業を中止する。

イ．樹木は軽いので風の影響は無視する。

ウ．作業員を吊り荷へ近づけ、手で振れを抑える。

エ．風が強いほど吊り上げ速度を上げれば安全になる。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。樹冠は風を受けやすく吊り荷が不安定になる。

イ：受風面積が大きく振れやすい。

ウ：接触・挟まれの危険がある。

エ：急操作は荷振れを増すおそれがある。

総合解説：揚重作業では荷の形状・受風面積・風速等を考慮し、危険時には作業中止を判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0060 墜落・崩壊防止 > 揚重・クレーン | 難易度：標準

架空電線の近くで移動式クレーンを使用する。最も適切な措置はどれか。

ア．運転者が電線を目視できれば、管理者との協議は不要とする。

イ．ブームが電線に触れなければ吊り荷やワイヤロープの接近は問題ない。

ウ．夜間の方が電線が見えやすいので、照明なしで作業する。

エ．電線管理者と事前協議し、安全な離隔・防護・監視等を定め、ブームや吊り荷が危険範囲へ入らないよう管理する。

答え・解説 正答：エ

ア：電圧・離隔等を含めて事前の安全条件を確認する必要がある。

イ：吊り具等も接触・接近の危険がある。

ウ：視認性と安全な離隔を確保する必要がある。

エ：正しい。架空線接触は感電・停電等の重大事故につながる。

総合解説：架空線近接作業では、設備管理者との協議、安全離隔、防護、監視、位置表示、作業範囲制限を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0061 墜落・崩壊防止 > 揚重・クレーン | 難易度：応用

同じ荷を吊る場合でもクレーンの作業半径が大きくなる計画変更があった。最も適切な対応はどれか。

- ア．荷の重量が変わらなければクレーン能力の再確認は不要とする。
- イ．変更後の作業半径における定格能力を確認し、必要なら機種・据付位置・吊り方法を見直す。
- ウ．能力不足でもアウトリガーを少し浮かせれば吊れると判断する。
- エ．定格能力を超える場合は、吊り上げ速度を遅くすればよい。

答え・解説 正答：イ

ア：作業半径が変わると許容荷重が変化する。

イ：正しい。クレーン能力は作業半径等で変化する。

ウ：極めて危険である。

エ：定格荷重を超えて使用してはならない。

総合解説：移動式クレーンは荷重だけでなく、作業半径・ブーム長・据付条件等によって能力が変化するため、変更時は能力表等で再確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0062 墜落・崩壊防止 > 揚重・クレーン | 難易度：応用

公道に隣接する公園へ大型樹木を吊り込む。吊り荷が一時的に道路側へ近づく可能性がある。最も適切な計画はどれか。

- ア．短時間なら道路上へ無断で吊り荷を出してよい。
- イ．歩行者が吊り荷を避けると想定し、誘導を置かない。
- ウ．吊り荷経路を道路から可能な限り離し、必要な道路使用手続・交通誘導・立入規制を行い、吊り荷と第三者を分離する。
- エ．公道側へ荷が振れた場合だけ作業者が声を出して知らせる。

答え・解説 正答：ウ

ア：道路上の作業には必要な手続・安全対策がある。

イ：第三者の行動に依存しない管理が必要である。

ウ：正しい。揚重安全と公衆災害防止を一体で計画する。

エ：事前に経路・規制・監視を計画する必要がある。

総合解説：揚重作業が公道・第三者空間に近接する場合は、クレーン安全、吊り荷経路、道路手続、交通規制、立入管理を統合して計画する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0063 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：基礎

建設工事における公衆災害防止の対象として、最も適切なものはどれか。

- ア．工事現場で働く自社社員だけを対象とする。
- イ．完成後の施設利用者だけを対象とし、施工中の歩行者は含まない。
- ウ．財産被害は対象外で、人身事故だけを扱う。
- エ．工事関係者以外の第三者の生命・身体・財産への危害や迷惑を防止する。

答え・解説 正答：エ

ア：第三者への危害防止が対象である。

イ：施工中の周辺住民・歩行者等も対象となる。

ウ：生命・身体だけでなく財産への危害等も対象である。

エ：正しい。公衆災害防止対策要綱は第三者保護を目的としている。

総合解説：工事の安全管理では労働災害防止と公衆災害防止の双方が必要であり、周辺住民・道路利用者・公園利用者等を保護する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0064 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：基礎

供用中の公園工事で仮囲いを設ける主な目的として、最も適切なものはどれか。

- ア．工事内容を外から完全に見えなくすることだけを目的とする。
- イ．第三者が工事区域へ誤って立ち入ることを防ぎ、作業・資材による危険から分離する。
- ウ．資材を仮囲いへ立て掛けて保管するために設ける。
- エ．仮囲いがあれば工事車両出入口の誘導は不要になる。

答え・解説 正答：イ

ア：主目的は安全な分離である。

イ：正しい。工事区域と公衆空間を分ける基本措置である。

ウ：仮囲いの安定性を損なうおそれがある。

エ：出入口では別途第三者との交錯対策が必要である。

総合解説：仮囲い・柵・バリケード等は工事区域を明確化し、第三者の侵入・接触を防ぐため適切に維持管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0065 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：基礎

工事により通常の歩道を通れなくする場合の対応として、最も適切なものはどれか。

ア．歩行者には車道側を各自の判断で歩いてもらう。

イ．工事中は案内なしで通路を突然閉鎖する。

ウ．安全な代替歩行者通路を確保し、必要な案内・防護を行う。

エ．車いす利用者等の通行条件は考慮しない。

答え・解説 正答：ウ

ア：車両との接触危険がある。

イ：事前周知・案内が必要である。

ウ：正しい。歩行者の安全な通行を確保する。

エ：高齢者・車いす使用者等にも安全な通路を検討する。

総合解説：歩行者の通行を制限する場合は、安全で分かりやすい代替通路を確保し、幅員・段差・視認性等に配慮する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0066 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：基礎

工事車両が公道・歩道へ出入りする箇所での基本的な安全対策として、最も適切なものはどれか。

ア．車両が大きいほど歩行者から見えやすいので誘導不要とする。

イ．見通しを確保し、必要に応じて誘導者を配置して歩行者・一般車両との交錯を防ぐ。

ウ．出入口付近に資材を積み、車両速度を自然に落とす。

エ．歩道上で車両を長時間待機させる。

答え・解説 正答：イ

ア：大型車ほど死角が大きい場合がある。

イ：正しい。工事車両と第三者の接触防止が重要である。

ウ：見通しを悪化させる。

エ：歩行者通行を妨げる。

総合解説：工事出入口では死角・歩行者動線・一般交通を確認し、誘導・徐行・見通し確保・清掃等を行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0067 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：標準

歩行者通路に近接した高所で工具を使用する。最も適切な対策はどれか。

ア．工具が軽いので落下防止措置を行わない。

イ．工具の落下防止、作業区域の立入規制、防護設備等を組み合わせる。

ウ．歩行者に保護帽を配れば通路を開放できる。

エ．作業者が声をかけながら作業すれば防護設備は不要とする。

答え・解説 正答：イ

ア：小さな工具でも高所から落下すれば危険である。

イ：正しい。落下そのものと第三者曝露の双方を低減する。

ウ：工事側で落下物を防止し通行安全を確保する必要がある。

エ：声掛けだけに依存しない。

総合解説：高所からの落下物対策は、工具・資材の落下防止と第三者の立入・通行管理を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0068 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：標準

公園利用者が近くを通る場所に石材を一時保管する。最も適切な方法はどれか。

ア．子どもが登れるよう階段状に積む。

イ．通路を狭めてもよいので出入口正面に高く積む。

ウ．仮囲いに寄り掛けて積みは仮囲いが補強される。

エ．転倒・崩れが生じない安定した積み方とし、第三者が接触できないよう区画する。

答え・解説 正答：エ

ア：転落・崩壊の危険がある。

イ：避難・通行を妨げる。

ウ：仮囲いへ想定外の荷重を与える。

エ：正しい。資材自体の安定と立入管理が必要である。

総合解説：資材は安定・転倒防止・通路確保・第三者立入防止・飛散防止等を考慮して保管する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0069

公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：標準

乾燥した日に土砂積込みで粉じんが周辺住宅へ飛散している。最も適切な対応はどれか。
ア．散水、積込み方法、運搬車の覆い、作業時間等を見直し、周辺への飛散を低減する。
イ．風向きに関係なく作業速度を上げ、短時間で終える。
ウ．住民が窓を閉めればよいので施工側の対策は不要とする。
エ．粉じんが見えなくなる夜間だけ作業する。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。発生源・伝播経路の両面から対策する。
イ：高い作業速度が飛散を増す場合がある。
ウ：工事側で公衆への迷惑・被害を低減する必要がある。
エ：見えにくくても飛散自体はなくなる。

総合解説：公衆災害には人身・物損だけでなく、粉じん・騒音等の迷惑防止も含まれる。発生源対策と周辺配慮を行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0070

公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：標準

夜間も残る仮囲い・段差・迂回路の管理として、最も適切なものはどれか。
ア．昼間に見えるため夜間対策は不要とする。
イ．照明を歩行者の目に直接向け、眩しさを最大にする。
ウ．仮設物の位置を毎晩変え、慣れによる事故を防ぐ。
エ．照明・反射材・保安灯等で視認性を確保し、歩行者が安全に通行できる状態を維持する。

答え・解説

正答：エ

ア：暗所では障害物・段差を認識しにくい。
イ：過度な眩しさはかえって危険である。
ウ：不要な変更は混乱を招く。
エ：正しい。昼間だけでなく夜間の視認性を確保する。

総合解説：公衆が通行する区域では、夜間・悪天候時も標識・区画・段差が認識できるようにし、照明の眩しさにも配慮する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0071 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：標準

大きな騒音が予想される伐根作業を住宅地に隣接して行う。最も適切な対応はどれか。

ア．作業時間・期間・連絡先等を事前に周知し、可能な範囲で低騒音工法や時間帯を検討する。

イ．苦情が出るまで作業内容を知らせない。

ウ．早朝・深夜ほど交通が少ないので騒音を考えず実施する。

エ．騒音対策は作業員の耳栓だけで十分とする。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。周辺への影響を低減し、情報提供を行う。

イ：事前周知により理解・調整を図ることが重要である。

ウ：周辺生活への影響を考慮する必要がある。

エ：第三者への騒音影響は別途低減する必要がある。

総合解説：公衆災害防止では、工事内容・時間・交通変更等を周辺へ適切に周知し、迷惑低減と緊急連絡体制を整える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0072 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：標準

台風接近が予想される工事現場での公衆災害防止として、最も適切なものはどれか。

ア．風が強くなってから作業員が現場へ戻って固定する。

イ．重量物だけ見て、シートや軽量資材は確認しない。

ウ．シート・看板・仮囲い・資材等の固定状態を点検し、飛散・倒壊のおそれがあるものを撤去・補強する。

エ．仮囲いは高さがあるほど風に強いので点検不要とする。

答え・解説 正答：ウ

ア：荒天時の作業自体が危険になる。

イ：軽量物は飛散して第三者被害を生じやすい。

ウ：正しい。荒天前に具体的な措置を行う。

エ：受風面積が大きく倒壊リスクがある。

総合解説：荒天が予想される場合は、作業中止基準だけでなく、仮設物・資材の飛散倒壊防止を事前に行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0073 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：応用

幼児・高齢者・車いす利用者が多い公園で工事を行う。最も適切な第三者安全計画はどれか。

ア．段差・幅員・見通しを考慮した迂回路を設け、明確な案内と工事車両との分離を行う。

イ．健常な成人が通れる幅だけ確保すればよい。

ウ．迂回路に急な段差を設け、注意表示だけで対応する。

エ．工事車両と歩行者を同じ狭い通路で交互に通す。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。多様な利用者が安全に通行できる計画である。

イ：利用者特性に応じた通路条件が必要である。

ウ：車いす・高齢者等の安全通行を妨げる。

エ：可能な限り動線分離を行うべきである。

総合解説：供用施設の工事では、利用者の年齢・移動特性を考慮し、歩行経路と工事車両を分離して分かりやすい案内を行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0074 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：応用

工事車両が仮囲いに接触し、一部が歩道側へ傾いた。最も適切な初動はどれか。

ア．見た目に倒れていないので歩行者を通し続ける。

イ．歩道側を直ちに規制して第三者を遠ざけ、倒壊防止の応急措置と関係者への連絡を行ったうえで原因・再発防止を検討する。

ウ．写真だけ撮って通常作業を続け、終業後に直す。

エ．接触した運転者だけを交代させ、仮囲いの安定性は確認しない。

答え・解説 正答：イ

ア：余震・風・追加荷重で倒壊する可能性がある。

イ：正しい。二次災害防止を最優先する。

ウ：第三者への危険が残るため直ちに対応する。

エ：設備側の損傷と原因を確認する必要がある。

総合解説：公衆災害やそのおそれが生じた場合は、まず危険区域を規制して二次災害を防止し、応急措置・報告・原因分析・再発防止へつなげる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0075 公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：基礎

道路上でクレーンを使用して資材搬入作業を行う場合、原則として検討が必要な許可はどれか。

ア．建築確認だけである。

イ．道路交通法に基づく道路使用許可である。

ウ．河川占用許可だけである。

エ．食品営業許可だけである。

答え・解説 正答：イ

ア：道路上の作業とは別制度である。

イ：正しい。道路で工事・作業を行う行為は道路使用許可の対象となる。

ウ：道路上の作業には道路交通法上の手続を検討する。

エ：道路工事・作業の許可とは無関係である。

総合解説：道路上で工事・作業を行う場合は、所轄警察署長による道路使用許可の要否を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0076 公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：基礎

道路上に工事用足場を一定期間設置し、道路空間を継続的に使用する場合の考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．道路使用許可を取れば道路占用許可は常に不要である。

イ．道路占用許可は警察署長だけが行う。

ウ．道路使用許可は道路管理者だけが行う。

エ．道路占用許可に加え、作業内容によって道路使用許可も必要となる場合がある。

答え・解説 正答：エ

ア：継続的に道路空間を占用する物件では道路占用許可が必要となる場合がある。

イ：道路占用許可は道路管理者が行う。

ウ：道路使用許可は所轄警察署長が行う。

エ：正しい。占用と使用は目的・所管が異なり、両方必要な場合がある。

総合解説：道路使用許可は交通安全の観点、道路占用許可は道路空間の継続使用の観点から設けられた別制度である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0077 公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：基礎

工事車両が一般交通と交錯する場所で交通誘導員を配置する主な目的はどれか。

ア．工事車両の速度を上げて通過台数を増やす。

イ．道路標識を見えなくして工事車両を優先する。

ウ．歩行者を工事区域内へ誘導する。

エ．工事車両と一般車両・歩行者の安全な通行を調整し、接触や混乱を防ぐ。

答え・解説 正答：エ

ア：安全確保が目的である。

イ：一般交通の安全を損なう。

ウ：工事区域と第三者を分離する。

エ：正しい。交通の安全と円滑を確保する。

総合解説：交通誘導では、一般交通・歩行者・工事車両の動きを把握し、分かりやすい合図で安全かつ円滑に通行させる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0078 公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：標準

道路使用許可に「作業時間帯」と「誘導員配置」の条件が付された。施工管理として最も適切な対応はどれか。

ア．許可が出た時点で条件部分は参考事項とみなす。

イ．許可条件を作業計画へ反映し、関係者へ周知して条件どおり施工する。

ウ．工程が遅れた場合は現場判断で作業時間を延長する。

エ．誘導員が欠勤しても代替措置なしで作業を続ける。

答え・解説 正答：イ

ア：付された条件に従う必要がある。

イ：正しい。許可条件は現場運用へ落とし込む必要がある。

ウ：必要な変更手続・協議を行うべきである。

エ：許可条件と安全条件を満たす必要がある。

総合解説：道路使用許可は取得自体が目的ではなく、許可条件を施工計画・日々の作業へ確実に反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0079 公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：標準

道路沿い工事で案内標識を設置する際、最も適切な配置はどれか。

- ア．工事区域へ入った後に初めて見える位置へ置く。
- イ．運転者・歩行者が十分手前から認識でき、植栽や工事車両で遮られない位置に設置する。
- ウ．街路樹の枝で半分隠れる位置でも固定しやすければよい。
- エ．標識を増やすほど安全なので、内容が矛盾しても多数設置する。

答え・解説 正答：イ

ア：進路変更等の判断が遅れる。

イ：正しい。情報を必要な時点で視認できるようにする。

ウ：標識の視認性を確保する必要がある。

エ：情報の統一と分かりやすさが重要である。

総合解説：道路工事の保安施設・標識は、視認距離、夜間視認性、進路判断時間、既存標識との整合を考慮する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0080 公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：標準

工事により歩道の一部を閉鎖する。最も適切な交通計画はどれか。

- ア．歩道が使えない区間では歩行者を車道中央へ誘導する。
- イ．歩行者用の安全な迂回路を確保し、車両との交錯部を最小化して必要な誘導を行う。
- ウ．迂回路に段差や障害物があっても距離が短ければよい。
- エ．歩行者と工事車両を同時に一つの狭い通路へ通す。

答え・解説 正答：イ

ア：車両との接触危険が高い。

イ：正しい。歩行者安全を優先して動線を分離する。

ウ：安全かつ利用可能な通路条件が必要である。

エ：可能な限り動線を分離する。

総合解説：歩道閉鎖時は、歩行者が安全に通れる代替経路を確保し、車両との交錯を抑え、明確に案内する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0081 公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：標準

工事車両が現場から泥を公道へ持ち出している。最も適切な対応はどれか。

ア．車輪洗浄や場内路面整備を行い、公道へ出た泥は速やかに清掃して交通安全を確保する。

イ．雨が降れば自然に流れるため放置する。

ウ．泥の上に砂を追加して見えなくする。

エ．公道へ出た後は道路管理者だけの責任とする。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。泥によるスリップ・飛散・迷惑を防止する。

イ：路面が滑りやすくなり事故の原因となる。

ウ：根本的な清掃にならない。

エ：工事に起因する汚損は施工側で対策する。

総合解説：工事車両出入口では泥・土砂の持出しを防ぎ、路面汚損が生じた場合は速やかに清掃して一般交通への危険を防止する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0082 公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：標準

施工進捗により片側交互通行の区間が変更される。最も適切な対応はどれか。

ア．誘導員の位置だけ変え、標識は旧区間のままにする。

イ．許可・協議条件を確認し、標識・誘導員位置・バリケード等を新しい規制区間に合わせて変更し周知する。

ウ．規制区間の変更は工事関係者だけ知っていればよい。

エ．短時間の変更なら許可条件や協議内容は確認しない。

答え・解説 正答：イ

ア：道路利用者へ誤った情報を与える。

イ：正しい。規制形態の変更を設備・人員へ反映する。

ウ：一般交通へ明確に示す必要がある。

エ：必要な手続・条件に従う。

総合解説：交通規制の変更時は、許可条件、標識、保安施設、誘導員、歩行者経路を一体で更新する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0083 公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：応用

公道上に工事用足場と資材置場を3週間設け、その前面でクレーン作業も行う計画である。最も適切な手続の考え方はどれか。

- ア．クレーン作業があるので道路使用許可だけで全て足りると決める。
- イ．足場を置くので道路占用許可だけでクレーン作業も自動的に許可される。
- ウ．道路占用許可と道路使用許可の双方の要否を確認し、道路管理者・所轄警察署と必要な手続・条件を調整する。
- エ．工事が公共目的なら一切の手続は不要とする。

答え・解説 正答：ウ

ア：継続的な足場・資材置場は道路占用の対象となり得る。

イ：道路上の工事・作業には道路使用許可の確認が必要である。

ウ：正しい。継続占用と道路上作業は異なる制度の対象となり得る。

エ：工事主体・内容に応じて法定手続や協議が必要である。

総合解説：道路上の工事では、道路交通法上の「使用」と道路法上の「占用」を区別し、両制度の要否と許可条件を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0084 公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：応用

工事車両が出入口で一般車両と接触した。最も適切な初動はどれか。

- ア．負傷者救護と二次事故防止を優先し、必要な通報・現場保全を行い、工事側の交通管理上の原因も確認する。
- イ．工事への影響を避けるため、車両をすぐ移動して痕跡を消す。
- ウ．当事者同士で話し合えば、誘導方法の見直しは不要とする。
- エ．事故後も同じ出入口運用を続け、終業後に検討する。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。人命・二次災害防止を最優先する。

イ：必要な救護・通報・現場保全を行うべきである。

ウ：工事側の交通管理に原因がないか検証する。

エ：再発のおそれがあれば一時停止し対策を講じる。

総合解説：交通事故時は救護・二次事故防止・通報を行い、その後、誘導位置・見通し・車両動線・許可条件等を見直す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0085 公衆災害防止 > 地下埋設物・架空線 | 難易度：基礎

掘削工事前の地下埋設物確認として、最も適切なものはどれか。

ア．埋設物管理者の台帳等と設計図面を照合し、位置・種類等を確認する。

イ．現場に標識がなければ埋設物はないと判断する。

ウ．掘削機械のバケットに当たった時点で位置を確認する。

エ．過去工事の記憶だけを基に位置を決める。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。事前調査で埋設物情報を把握する。

イ：地下埋設物は地表から分からない場合がある。

ウ：損傷前に位置を確認する必要がある。

エ：管理者資料・現地確認を行う。

総合解説：埋設物事故防止では、施工前に管理者資料と設計図を照合し、必要な現地確認・試掘へつなげる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0086 公衆災害防止 > 地下埋設物・架空線 | 難易度：基礎

地下埋設物に近接して掘削する際に試掘を行う主な目的はどれか。

ア．埋設物の実際の位置・深さ等を確認し、安全な施工方法を決定する。

イ．埋設物を意図的に露出・損傷させ、材質を確認する。

ウ．掘削土量を増やして工事数量を確認する。

エ．試掘後は埋設物管理者との協議を省略できる。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。図面情報と現地の実位置を照合する。

イ：損傷を避けながら位置を確認する。

ウ：主目的は埋設位置の安全確認である。

エ：管理者との協議・立会が必要な場合がある。

総合解説：埋設物の図面位置と実位置には差がある場合があるため、近接施工では管理者との協議や試掘により確実に位置を把握する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0087

公衆災害防止 > 地下埋設物・架空線 | 難易度：基礎

架空電線付近でバックホウやクレーンを使用する際の基本的な考え方として、最も適切なものはどれか。

- ア．電線位置・電圧等を確認し、管理者と協議した安全離隔・防護・監視等を実施する。
- イ．機械の運転席が絶縁されていればブーム接触は問題ない。
- ウ．電線が高い位置にあれば、吊り荷やブーム長を確認しない。
- エ．曇天時だけ架空線が危険で、晴天時は接近してよい。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。接触・接近による感電や設備損傷を防ぐ。

イ：接触は感電・停電・火災等につながる。

ウ：機械・吊り荷の最大到達範囲を考慮する。

エ：天候に関係なく安全離隔が必要である。

総合解説：架空線近接作業では、設備管理者との協議、位置表示、安全離隔、監視、機械可動範囲制限等を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0088

公衆災害防止 > 地下埋設物・架空線 | 難易度：標準

埋設物に近接する工事で、管理者との事前協議内容として最も適切なものはどれか。

- ア．工事費の支払方法だけを決め、施工上の安全事項は現場に任せる。
- イ．埋設物の位置が分かれば、緊急連絡先は不要とする。
- ウ．防護方法、立会の要否、施工段階ごとの保安措置、緊急時の連絡先・方法等を確認する。
- エ．管理者の立会が必要でも工程優先で省略する。

答え・解説

正答：ウ

ア：保安措置の協議が重要である。

イ：万一の事故に備え連絡体制が必要である。

ウ：正しい。事故防止と緊急対応の双方を事前に整理する。

エ：協議で定めた条件を守る必要がある。

総合解説：埋設物近接工事では、位置確認だけでなく、防護・立会・緊急連絡・責任分担まで事前に決める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0089

公衆災害防止 > 地下埋設物・架空線 | 難易度：標準

埋設管の位置が確認でき、その周辺を掘削する。最も適切な方法はどれか。

ア．位置が分かったので、バケットを管へ当てて周囲の土を落とす。

イ．機械の掘削速度を上げれば接触時間が短く安全になる。

ウ．管理者との協議・指示に従い、埋設物近傍では必要に応じて人力掘削等へ切り替え、損傷を防ぐ。

エ．埋設管を一時的に重機で押して移動させる。

答え・解説

正答：ウ

ア：埋設管損傷の危険が高い。

イ：接触自体を防ぐ必要がある。

ウ：正しい。近接部では機械接触を避ける方法を採用する。

エ：管理者との協議なく移動・支持を変更してはならない。

総合解説：埋設物近接部では、位置・材質・防護条件に応じて掘削方法を変え、機械の直接接触を防止する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0090

公衆災害防止 > 地下埋設物・架空線 | 難易度：標準

掘削により既設管が露出し、周囲の地盤支持が失われた。最も適切な対応はどれか。

ア．自重で安定すると考え、長い区間を宙吊り状態にする。

イ．作業スペース確保のため管を作業員が踏み台にする。

ウ．埋設物の管理者へ知らせず、木片で適当に支える。

エ．埋設物管理者と協議し、必要な仮受け・防護を行って変形や破損を防ぐ。

答え・解説

正答：エ

ア：管に過大な曲げ等が生じる可能性がある。

イ：損傷・事故の危険がある。

ウ：支持方法は管理者と協議して適切に行う。

エ：正しい。露出後の支持条件変化を管理する。

総合解説：埋設物を露出させた場合は、支持条件の変化による破損を防ぐため、管理者と協議して仮受け・防護・監視を行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0091 公衆災害防止 > 地下埋設物・架空線 | 難易度：標準

架空線近くでバックホウのブームを操作する。最も適切な監視方法はどれか。

ア．ブームと架空線の位置関係を確認でき、運転者へ確実に合図できる監視者・誘導者を配置する。

イ．運転者の感覚だけで離隔を判断する。

ウ．監視者は電線直下に立ち、接近したら手でブームを押す。

エ．架空線が見える作業員全員が別々に合図する。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。運転席の死角を補い安全離隔を管理する。

イ：死角や距離感の誤りがある。

ウ：感電・挟まれる危険がある。

エ：合図が競合するため指揮・合図を明確にする。

総合解説：架空線近接作業では、運転者だけに任せず、必要に応じて監視者・誘導者を配置して機械可動範囲を管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0092 公衆災害防止 > 地下埋設物・架空線 | 難易度：応用

掘削中に図面にはないケーブル状の埋設物を発見した。最も適切な対応はどれか。

ア．不要なケーブルと判断し、切断して掘削を続ける。

イ．図面にはないので工事対象外として埋め戻し、報告しない。

ウ．材質確認のため、金属工具で被覆を削る。

エ．作業を停止して埋設物を保護し、関係管理者へ確認して種類・取扱いが判明するまで不用意に触れない。

答え・解説 正答：エ

ア：感電・通信障害等の重大事故につながる。

イ：不明物の存在を確認・報告する必要がある。

ウ：通電等の危険があるため不用意に触れない。

エ：正しい。不明埋設物は通電・通信等の危険があるため、確認を優先する。

総合解説：図面にはない埋設物を発見した場合は、停止・保護・関係者確認を行い、正体と安全な取扱いが明確になるまで作業を再開しない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0093 環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：基礎

特定建設作業に伴う騒音について、敷地境界線における基準として正しいものはどれか。

ア．振動規制で用いる75 dBを、騒音の敷地境界基準にもそのまま適用する。

イ．騒音規制法の特定建設作業として、敷地境界で85 dBを超えないよう管理する。

ウ．作業者の騒音ばく露に関する別の考え方と混同し、90 dBを敷地境界基準とする。

エ．100 dB未満なら周辺生活環境への規制対象にならないと判断する。

答え・解説 正答：イ

ア：誤り。75 dBは特定建設作業の振動基準であり、騒音基準ではない。

イ：正しい。特定建設作業の騒音は原則として敷地境界で85 dBを超えないことが基準である。

ウ：誤り。特定建設作業の敷地境界騒音基準は90 dBではない。

エ：誤り。100 dBを境に規制対象外となる制度ではない。

総合解説：騒音85dBと振動75dBを混同しないことが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0094 環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：基礎

振動規制法では、指定地域内の特定建設作業による振動について敷地境界線での上限を定めている。その基準値として正しいものはどれか。

ア．一般的な環境騒音の数値を流用し、65 dBを特定建設作業の振動上限とする。

イ．騒音規制法の85 dBを振動規制法にもそのまま適用する。

ウ．重機近傍だけを評価すればよいとして95 dBを敷地境界基準とする。

エ．振動規制法の特定建設作業として、敷地境界で75 dBを超えないよう管理する。

答え・解説 正答：エ

ア：誤り。特定建設作業の振動基準は65 dBではない。

イ：誤り。85 dBは特定建設作業の騒音基準である。

ウ：誤り。振動規制の敷地境界基準は95 dBではない。

エ：正しい。特定建設作業の振動は原則として敷地境界で75 dBを超えないことが基準である。

総合解説：特定建設作業の代表的な基準値は騒音85dB、振動75dBである。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0095 環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：基礎

指定地域内で届出対象となる特定建設作業を行う場合、原則として届出を行う時期はどれか。

- ア．作業開始後7日以内。
- イ．工事完成後7日以内。
- ウ．作業開始の30日前までに限る。
- エ．作業開始の日の7日前まで。

答え・解説 正答：エ

ア：原則は事前届出である。

イ：完成後の届出ではない。

ウ：原則は7日前までであり、30日前までに限定されない。

エ：正しい。騒音・振動とも原則として作業開始の7日前までに届出を行う。

総合解説：特定建設作業の届出は、周辺環境への影響を事前に把握・管理するための手続である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0096 環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：標準

住宅地に近接する現場で建設機械の騒音を低減する対策として、最も適切なものはどれか。

- ア．低騒音型機械の採用、機械配置の見直し、防音設備などを組み合わせる。
- イ．機械を住宅側の敷地境界へ寄せる。
- ウ．待機中も常に高回転で運転する。
- エ．苦情が出るまで対策を行わない。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。発生源と伝搬経路の双方へ対策する。

イ：受音点との距離が短くなり影響が増える可能性がある。

ウ：不要な騒音を増やす。

エ：予防的な環境管理が必要である。

総合解説：騒音対策は、機械選定、配置、遮音、作業時間、維持整備を総合して行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0097 環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：標準

振動に敏感な建物の近くで締固め作業を行う場合、最も適切な対応はどれか。

- ア．振動は地中を伝わらないため距離を考慮しない。
- イ．最も大型の機械を使えば必ず振動が小さくなる。
- ウ．機械・施工方法・作業位置を見直し、必要に応じて振動を測定して影響を確認する。
- エ．騒音測定だけで振動を評価する。

答え・解説 正答：ウ

ア：振動は地盤を介して伝搬する。

イ：機械規模や施工方法により振動が増えることがある。

ウ：正しい。発生源と周辺条件を把握し、施工方法を調整する。

エ：騒音と振動は別の物理量である。

総合解説：振動対策では、低振動工法、機械選定、距離確保、時間帯調整、測定などを組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0098 環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：標準

近隣住民から工事振動の苦情があった。最初の対応として最も適切なものはどれか。

- ア．測定せず主観的な苦情として処理する。
- イ．原因調査なしに工事全体を永久に中止する。
- ウ．住民への説明を避け工程だけを優先する。
- エ．作業内容・時間・発生源を確認し、必要に応じて測定して原因と影響を把握する。

答え・解説 正答：エ

ア：客観的な確認が必要である。

イ：影響を把握して合理的な対策を行うべきである。

ウ：周辺とのコミュニケーションも重要である。

エ：正しい。事実関係を確認したうえで具体的な低減策を検討する。

総合解説：苦情時は、作業記録・測定値・機械稼働状況を照合して原因を特定し、対策へつなげる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0099 環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：標準

住宅地に近接した造成現場で油圧ショベルから通常と異なる大きな機械音が出始めた。騒音・振動対策として最も適切な日常管理はどれか。

- ア．消音装置を外して使用する。
- イ．異常音があっても能率が落ちなければ使い続ける。
- ウ．待機中の高回転運転を標準とする。
- エ．異常音、部品の緩み、消音装置などを点検し、適切な整備状態で使用する。

答え・解説 正答：エ

- ア：騒音を増大させるおそれがある。
イ：原因確認と整備が必要である。
ウ：不要な騒音・排出を増やす。
エ：正しい。整備不良は不要な騒音・振動の増加につながる。
総合解説：環境対策は低騒音型機械の採用だけでなく、適切な点検・整備・運転も重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0100 環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：標準

特定建設作業に作業時間帯や連続作業日数の基準が設けられている主な理由はどれか。

- ア．施工会社の利益率を一定にするため。
- イ．燃料消費量を統一するため。
- ウ．作業員の賃金計算を簡単にするため。
- エ．周辺住民の生活環境への影響を時間的にも抑えるため。

答え・解説 正答：エ

- ア：環境規制の目的ではない。
イ：直接の目的ではない。
ウ：環境規制の目的ではない。
エ：正しい。大きさだけでなく時間帯や日数も生活環境保全に関係する。
総合解説：特定建設作業では、騒音・振動の大きさに加え、夜間・休日・連続日数等にも基準がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0101 環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：応用

住宅地に隣接する現場で、舗装破碎と大型締固めを同日に予定している。環境影響を抑える計画として最も適切なものはどれか。

- ア．高負荷作業を同時に集中させ、監視しない。
- イ．周知は苦情発生後だけ行う。
- ウ．高負荷作業の重複を避け、低騒音・低振動工法、時間帯、測定、周辺周知を組み合わせる。
- エ．騒音だけを測定し振動は同じ指標で代用する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：影響が大きくなる可能性がある。
 - イ：事前周知も重要である。
 - ウ：正しい。発生量と同時稼働を総合管理する。
 - エ：別々に評価する必要がある。
- 総合解説：工程調整、工法・機械選定、測定、周知を組み合わせることで周辺影響を低減できる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0102 環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：応用

ある作業が法令上の特定建設作業に該当しない場合の環境管理として、最も適切なものはどれか。

- ア．法の対象外でも周辺影響や条例等を確認し、必要な騒音・振動対策を行う。
- イ．対象外なら騒音・振動対策は一切不要である。
- ウ．対象外なら夜間に無制限で作業できる。
- エ．規制値超過後だけ環境管理を行う。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。法の特定建設作業に該当しないことは環境配慮不要を意味しない。
 - イ：条例や契約条件、周辺環境への配慮が必要な場合がある。
 - ウ：他の規制・条件を確認する必要がある。
 - エ：予防的な管理が重要である。
- 総合解説：法令の最低基準に加えて、現場条件・自治体条例・発注条件等も踏まえて管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0103 環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：基礎

乾燥した土砂の掘削・運搬で粉じんを抑える方法として最も適切なものはどれか。

ア．強風時に掘削を集中する。

イ．必要に応じて散水し、運搬車両の積荷を覆うなど飛散を抑える。

ウ．荷台から土砂を高く積み上げたまま走行する。

エ．現場出入口の清掃を行わない。

答え・解説 正答：イ

ア：飛散を増やす可能性がある。

イ：正しい。発生源の湿潤化と運搬時の飛散防止が基本である。

ウ：落下・飛散の原因となる。

エ：道路汚損や再飛散につながる。

総合解説：粉じん対策は、散水、覆い、速度抑制、清掃などを組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0104 環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：基礎

土工事で発生した濁水を場外へ排水する場合の基本対応として最も適切なものはどれか。

ア．濁水をそのまま河川へ直接放流する。

イ．排水先と水質条件を確認し、必要に応じて沈砂・沈殿等の処理を行う。

ウ．排水先を確認せず最寄りの側溝へ流す。

エ．降雨時は処理を省略する。

答え・解説 正答：イ

ア：周辺水環境へ悪影響を与えるおそれがある。

イ：正しい。土粒子等を除去し適切な状態で排水する必要がある。

ウ：排水系統や条件確認が必要である。

エ：降雨時ほど流出が増える可能性がある。

総合解説：濁水管理では、発生源対策、集水、沈砂・沈殿、適切な排水先の確保が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0105 環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：基礎

工事車両が公道へ土砂を持ち出すのを防ぐ方法として最も適切なものはどれか。

ア．乾けば問題ないとして清掃しない。
イ．公道上で自然に落ちるまで走行する。
ウ．出入口でタイヤ等の付着土を除去し、必要に応じて道路を清掃する。
エ．未処理の場内排水でタイヤを洗う。

答え・解説 正答：ウ

ア：乾燥土砂は粉じんとして再飛散する。
イ：交通安全・道路汚損上不適切である。
ウ：正しい。泥の持出しと再飛散を防ぐ。
エ：濁水流出につながるおそれがある。
総合解説：出入口では洗浄・集水・清掃を一体で管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0106 環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：標準

乾燥した造成地で強風が予想されている。最も適切な粉じん対策はどれか。

ア．散水を停止し完全に乾燥させる。
イ．散水・シート養生等を強化し、必要なら粉じんの多い作業を延期する。
ウ．土砂を高く積み覆いをしない。
エ．重機速度を上げて短時間で終える。

答え・解説 正答：イ

ア：飛散しやすくなる。
イ：正しい。気象条件に応じて発生源と飛散経路を管理する。
ウ：飛散を助長する。
エ：巻き上げ粉じんを増やす可能性がある。
総合解説：粉じんは風速・乾燥状態・車両走行等に左右されるため、気象に応じた管理が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0107 環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：標準

仮設沈砂池の管理として最も適切なものはどれか。

- ア．堆積土砂量や流入・流出状況を点検し、必要に応じて土砂を除去する。
- イ．設置後は工事終了まで点検しない。
- ウ．堆積土砂を排水口前へ集める。
- エ．越流しても放置する。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。有効容量を確保して処理能力を維持する。

イ：性能低下を見逃す。

ウ：流出・閉塞の原因になる。

エ：未処理濁水の流出につながる。

総合解説：仮設水処理設備も継続的な点検・清掃・容量管理が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0108 環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：標準

大雨が予想される造成現場で、濁水流出を防ぐ事前措置として最も適切なものはどれか。

- ア．排水路を閉塞して場内に水をため続ける。
- イ．沈砂池を満杯のままにする。
- ウ．雨が降り始めてから初めて排水経路を確認する。
- エ．裸地・仮置土・排水経路を点検し、養生や仮排水、沈砂設備の容量を確保する。

答え・解説 正答：エ

ア：越流や崩壊の危険がある。

イ：有効容量が不足する。

ウ：予防措置が遅い。

エ：正しい。降雨前に流出源と排水経路を管理する。

総合解説：大雨前には土砂流出源、仮排水、沈砂設備、法面を事前点検する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0109 環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：標準

切断作業で粉じんが発生する場合の対策として最も適切なものはどれか。

ア．湿式化や集じん等の発生源対策を行い、必要な呼吸用保護具も使用する。

イ．保護具さえあれば周辺への飛散対策は不要である。

ウ．送風で粉じんを周囲へ飛ばす。

エ．視界が悪化するまで対策しない。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。工学的対策と個人保護を組み合わせる。

イ：他作業者・周辺への影響も抑える必要がある。

ウ：拡散させるだけである。

エ：事前対策が必要である。

総合解説：粉じんは発生抑制・捕集等を基本とし、必要に応じて適切な保護具を併用する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0110 環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：応用

仮設排水設備が破損し、濁水が場外へ流出し始めた。最初の対応として最も適切なものはどれか。

ア．流出量を記録するだけで作業を続ける。

イ．原因を隠すため記録を残さない。

ウ．流出を止める・広がりを抑える措置を行い、関係者へ連絡して原因と影響を確認する。

エ．雨水で薄まるのを待つ。

答え・解説 正答：ウ

ア：被害拡大防止が必要である。

イ：適切な事故対応に反する。

ウ：正しい。拡大防止と連絡・状況把握を優先する。

エ：影響が拡大する可能性がある。

総合解説：環境事故でも、拡大防止、連絡、原因把握、復旧、再発防止の流れが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0111 環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：応用

大規模造成で粉じんと濁水を同時に抑える施工計画として最も適切なものはどれか。

- ア．全区域を一度に裸地化する。
- イ．散水した水を未処理で場外へ流す。
- ウ．排水設備だけ整え運搬経路は管理しない。
- エ．裸地面積を抑え区画施工とし、散水・養生・仮排水・沈砂設備を工程に合わせて配置する。

答え・解説 正答：エ

ア：発生期間・範囲が増える。

イ：濁水問題を生む。

ウ：複数の発生源を総合管理する必要がある。

エ：正しい。発生源縮小と対策を工程へ組み込む。

総合解説：環境管理は施工区画・工程・運搬・仮排水・気象条件を一体で設計すると効果が高い。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0112 環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：基礎

通常の建設工事で発生する建設廃棄物について、原則として排出事業者に該当する者はどれか。

- ア．発注者から直接工事を請け負う元請業者。
- イ．近隣住民。
- ウ．資材納入だけを行う運送業者。
- エ．最終処分場の管理者だけ。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。通常は元請業者が排出事業者として適正処理の責任を負う。

イ：排出事業者ではない。

ウ：通常は排出事業者ではない。

エ：建設工事の排出事業者責任とは異なる。

総合解説：建設廃棄物では、原則として元請業者が排出事業者である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0113 環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：基礎

現場から処理業者へ建設廃棄物を委託搬出する際、環境管理担当者がマニフェストで確認すべき役割として最も適切なものはどれか。

- ア．建設機械の稼働時間を記録する。
- イ．出来形数量を証明する。
- ウ．作業員の出退勤を管理する。
- エ．委託した産業廃棄物の流れと処理終了を確認する。

答え・解説 正答：エ

- ア：目的が異なる。
- イ：出来形管理書類ではない。
- ウ：労務管理書類ではない。
- エ：正しい。排出事業者が処理状況を追跡・確認するために用いる。
- 総合解説：マニフェストは不適正処理防止と処理状況確認の重要な仕組みである。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0114 環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：基礎

建設廃棄物を現場で分別する主な利点はどれか。

- ア．すべて混ぜることで処理が簡単になる。
- イ．種類を記録しなくてよくなる。
- ウ．無許可業者へ委託できるようになる。
- エ．再生利用や適正処理を行いやすくし、混合廃棄物を減らせる。

答え・解説 正答：エ

- ア：混合は再資源化を難しくする。
- イ：種類ごとの管理が必要である。
- ウ：許可確認が必要である。
- エ：正しい。分別は再資源化と適正処理の基本である。
- 総合解説：現場分別は再資源化、適正処理、処理費用の適正化につながる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0115 環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：標準

元請業者が産業廃棄物処理を外部へ委託する場合、最も適切な対応はどれか。

ア．下請へ任せれば元請は処理先を確認しなくてよい。

イ．無許可業者へ口頭で依頼する。

ウ．許可範囲等を確認し、適切な委託契約とマニフェスト等で処理状況を確認する。

エ．現場から出た時点で責任はなくなる。

答え・解説 正答：ウ

ア：適正処理責任を放棄できない。

イ：不適切である。

ウ：正しい。委託しても排出事業者責任は残る。

エ：処理終了まで確認が必要である。

総合解説：処理委託では、許可・契約・マニフェストを通じて適正処理を確保する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0116 環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：標準

建設リサイクル法の対象工事における基本的な考え方として最も適切なものはどれか。

ア．対象資材を分別解体等し、特定建設資材廃棄物の再資源化等を行う。

イ．対象資材もすべて混合して最終処分する。

ウ．再利用可能な資材も現場で焼却する。

エ．工事規模や対象資材を確認しない。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。分別解体等と再資源化等が制度の柱である。

イ：制度趣旨に反する。

ウ：適正処理・再資源化に反する。

エ：対象工事が確認が必要である。

総合解説：建設リサイクル法は、対象工事で分別解体等と再資源化等を進める制度である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0117 環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：標準

建設廃棄物を現場で一時保管する方法として最も適切なものはどれか。

ア．種類を分け、飛散・流出・混入を防ぎ、搬出しやすい状態で管理する。

イ．廃油と木くずを同じ容器へ混合する。

ウ．軽量廃棄物を無覆蓋で積み上げる。

エ．排水路上へ仮置きする。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。保管時も適正処理と周辺環境へ配慮する。

イ：適正処理を難しくする。

ウ：飛散の原因になる。

エ：流出・排水障害を招く。

総合解説：現場保管では分別、飛散・流出防止、表示、搬出動線などを考慮する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0118 環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：標準

造園工事で発生した伐採材や剪定枝の扱いとして最も適切な考え方はどれか。

ア．品質や病虫害の有無、用途を確認し、可能なものは再利用・再資源化を検討する。

イ．すべて無条件に現場焼却する。

ウ．病虫害を確認せず全量を敷き広げる。

エ．再利用可能材も混合廃棄物にする。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。廃棄前に有効利用可能性を検討する。

イ：法令・環境上問題がある。

ウ：病虫害拡散等に注意が必要である。

エ：資源利用の機会を失う。

総合解説：建設副産物は発生抑制、再使用、再生利用、適正処分の順で検討する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0119 環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：応用

下請業者が建設廃棄物を契約外の場所へ搬出しようとしている。元請の対応として最も適切なものはどれか。

- ア．搬出を止め、委託契約・許可・処理先を確認し、適正な処理ルートへ是正する。
- イ．下請の判断としてそのまま搬出させる。
- ウ．記録を残さなければよいとして認める。
- エ．現場外へ出れば元請責任ではないとする。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。不適正処理を未然に防ぐ。

イ：元請の適正処理責任を果たしていない。

ウ：不適正処理の隠蔽につながる。

エ：委託後も適正処理確認が必要である。

総合解説：元請は契約、許可、運搬、処分、マニフェストを一連で管理する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0120 環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：応用

掘削土、コンクリート塊、伐採材が大量に発生する工事の副産物計画として最も適切なものはどれか。

- ア．全て同一場所へ混合し工事末期に処理方法を決める。
- イ．搬出先を決めず空きがなくなってから探す。
- ウ．掘削土と廃棄物を区別しない。
- エ．発生量・性状・再利用可能性・仮置場・搬出先を整理し、分別と再資源化を工程へ組み込む。

答え・解説 正答：エ

ア：再利用・再資源化が難しくなる。

イ：工程停滞や不適正処理リスクが高まる。

ウ：性状・法的扱いを確認して区分する必要がある。

エ：正しい。発生後に場当たりに処理しない。

総合解説：副産物管理は発生抑制、分別、再利用、搬出、処分を施工計画と一体化することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0121 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：基礎

作業員配置の基本として最も適切なものはどれか。

- ア．作業内容に必要な資格・技能・経験を確認し、能力に応じて配置する。
- イ．人数だけそろえば資格や経験は確認しない。
- ウ．未経験者を説明なしで危険作業へ単独配置する。
- エ．作業内容に関係なく毎日同じ配置とする。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。危険性と要求能力に適合した配置が必要である。

イ：法定資格や必要な能力がある作業がある。

ウ：教育・指導が必要である。

エ：工程や危険度に応じた見直しが必要である。

総合解説：適正配置では人数だけでなく、資格、技能、経験、健康状態、作業の組合せを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0122 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：基礎

複数班が同一区域で作業する場合、明確にしておくべき事項として最も適切なものはどれか。

- ア．各班が他班の作業を知らない状態にする。
- イ．連絡は事故後だけ行う。
- ウ．作業責任者、連絡方法、作業範囲、相互の干渉条件。
- エ．作業範囲を重複させ優先順位を決めない。

答え・解説 正答：ウ

ア：接触・干渉災害を招く。

イ：作業前・作業中の調整が必要である。

ウ：正しい。混在作業では指揮命令と連絡調整が重要である。

エ：混乱と接触リスクが高まる。

総合解説：責任者、連絡方法、作業区域、時間、重機動線などを明確にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0123 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：基礎

新たに現場へ入場する作業員への初期対応として最も適切なものはどれか。

- ア．他現場の経験があれば説明を省略する。
- イ．配置後に本人が危険箇所を探せばよい。
- ウ．現場固有の危険箇所、ルール、避難経路、連絡方法等を周知する。
- エ．緊急連絡先は管理者だけが知ればよい。

答え・解説 正答：ウ

- ア：現場ごとに危険源が異なる。
 - イ：事前周知が必要である。
 - ウ：正しい。他現場の経験だけでは現場固有条件を把握できない。
 - エ：必要な作業員へ周知する。
- 総合解説：新規入場時には現場固有の危険源・ルール・緊急時対応を理解させる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0124 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：標準

バックホウ作業と人力植栽作業を近接して行う場合の配置として最も適切なものはどれか。

- ア．旋回範囲内へ植栽作業員を配置する。
- イ．運転者だけが注意すれば立入管理は不要とする。
- ウ．作業区域を分離し、旋回・後退範囲へ作業員が入らないよう配置・誘導する。
- エ．区域を決めず空いた場所から自由に作業する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：接触災害の危険が高い。
 - イ：死角があるため不十分である。
 - ウ：正しい。重機と人の接触を防ぐ配置が必要である。
 - エ：混在作業の調整ができない。
- 総合解説：人と建設機械が近接する場合、作業分離、立入禁止、誘導、合図の統一が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0125 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：標準

経験の浅い作業員を危険性のある作業へ配置する場合の対応として最も適切なものはどれか。

ア．初日から単独で任せる。

イ．必要な教育を行い、理解度に応じて経験者の指導・監督下で段階的に作業させる。

ウ．質問を禁止し見て覚えさせるだけにする。

エ．資格不要の作業なら安全教育も不要とする。

答え・解説 正答：イ

ア：危険認識や技能が不十分な可能性がある。

イ：正しい。能力を確認しながら習熟させる。

ウ：必要な意思疎通が不足する。

エ：資格の有無と安全教育は別である。

総合解説：経験・技能・教育状況を踏まえ、危険度に応じた指導・監督を行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0126 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：標準

朝礼時に作業員が強い疲労と睡眠不足を訴えている。高所作業への配置として最も適切な対応はどれか。

ア．出勤した以上予定どおり高所作業へ配置する。

イ．申告を無視する。

ウ．体調を確認し、必要に応じて高所作業を避け、休養や作業変更を行う。

エ．休憩を減らして早く終わらせる。

答え・解説 正答：ウ

ア：注意力低下を考慮すべきである。

イ：安全上必要な対応が必要である。

ウ：正しい。健康状態は安全な作業遂行能力に影響する。

エ：疲労を悪化させる。

総合解説：配置は固定ではなく、当日の体調や作業負荷に応じて変更する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0127 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：標準

重量物を人力で取り扱う作業の要員配置として最も適切なものはどれか。

ア．最少人数で持ち上げられるか試してから決める。

イ．重量を確認せず一人へ任せる。

ウ．重量・形状・運搬距離・姿勢を確認し、機械化や複数人作業も含めて方法を決める。

エ．運搬経路の段差は考慮しない。

答え・解説 正答：ウ

ア：試行自体が危険である。

イ：負荷と能力の適合確認が必要である。

ウ：正しい。作業負荷に応じて人員・設備を選ぶ。

エ：転倒等の危険に関係する。

総合解説：要員配置は人数合わせではなく、作業負荷、設備、動線、経験を含めて計画する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0128 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：標準

交代勤務で班が入れ替わる場合、最も重要な引継ぎ内容はどれか。

ア．完了した作業だけ伝える。

イ．未完了作業、設備状態、危険箇所、変更事項、次班の作業条件。

ウ．各自が現場を見て判断し連絡しない。

エ．危険箇所は更新しない。

答え・解説 正答：イ

ア：異常や未完了事項の伝達が必要である。

イ：正しい。前班の情報を次班へ確実に伝える。

ウ：重要情報の漏れが起こりやすい。

エ：工程進行で危険箇所は変化する。

総合解説：交代時には作業状態・異常・危険・変更点を確実に共有する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0129 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：標準

人目につきにくい区域で単独作業を計画する場合、最も適切な対応はどれか。

- ア．危険性を評価し、必要なら複数配置とし、連絡・定時確認・緊急対応手段を確保する。
- イ．一人なら干渉がないので連絡手段は不要とする。
- ウ．危険作業ほど単独で行わせる。
- エ．通信状況を確認せず携帯電話だけに依存する。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。発見遅れ・救援遅れを防ぐ仕組みが必要である。

イ：負傷・体調不良時の発見が遅れる。

ウ：監視・救援が必要な場合がある。

エ：代替手段も検討する。

総合解説：単独作業では作業危険性に加え、異常時の発見・通報・救援まで評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0130 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：標準

工期短縮のため作業員を増員する場合の考え方として最も適切なものはどれか。

- ア．人数は多いほど必ず能率が上がる。
- イ．作業空間、指揮系統、機械との干渉を確認し、過密にならない適正人数を決める。
- ウ．増員後も責任者・連絡方法を見直さない。
- エ．機械作業区域へ人員を集中する。

答え・解説 正答：イ

ア：過密配置は接触・混乱を増やす。

イ：正しい。人数増加が常に能率・安全向上につながるとは限らない。

ウ：管理体制の見直しが必要である。

エ：接触リスクが高まる。

総合解説：増員時は作業空間・指揮・干渉・安全余裕を考慮して配置する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0131 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：応用

園路改修、植栽、クレーン揚重を同一区域で実施する日の配置として最も適切なものはどれか。

ア．全工種を同時開始し各自が避けながら作業する。

イ．責任者を置かず随時判断させる。

ウ．工種ごとの責任者と区域を明確にし、揚重中は下部作業を止めるなど時間・区域を調整する。

エ．吊荷の下でも植栽作業を続ける。

答え・解説 正答：ウ

ア：接触・落下物等の危険が高い。

イ：指揮命令が不明確になる。

ウ：正しい。作業干渉を減らし指揮系統を明確にする。

エ：重大な危険を伴う。

総合解説：複数工種が重なる日は、人員・時間・区域・責任者・重機動線を一体で調整する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0132 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：応用

有資格者を含む班で急な欠員が発生し、安全な実施条件を満たせなくなった。最も適切な対応はどれか。

ア．必要な資格・人数・指揮体制を再確認し、条件を満たせなければ作業を延期・変更する。

イ．無資格者を代わりに配置する。

ウ．人数不足を休憩削減で補う。

エ．欠員を記録せず継続する。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。工程より安全な実施条件を優先する。

イ：資格が必要な業務では不適切である。

ウ：疲労増大につながる。

エ：実施条件の再評価が必要である。

総合解説：欠員時は必要資格・技能・監視・指揮体制を再評価し、不足なら工程を調整する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0133 労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：基礎

改正労働安全衛生規則による熱中症重篤化防止対策の対象となる作業の目安として正しいものはどれか。

ア．WBGT20 以上で5分以上のすべての作業。

イ．WBGT28 以上または気温31 以上の環境で、連続1時間以上または1日4時間を超えることが見込まれる作業。

ウ．気温25 以上なら作業時間に関係なく一律対象。

エ．WBGT35 以上で1日8時間を超える場合だけ。

答え・解説 正答：イ

ア：対象条件ではない。

イ：正しい。2025年6月施行の強化措置で示される対象作業の目安である。

ウ：示されている条件とは異なる。

エ：対象範囲を過度に狭くしている。

総合解説：熱中症対策ではWBGTや気温と作業時間を確認し、対象作業で体制整備・手順作成・周知を行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0134 労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：基礎

熱中症を生ずるおそれのある作業で求められる体制として最も適切なものはどれか。

ア．重篤になるまで本人だけで判断させる。

イ．自覚症状がある者や異常を発見した者が報告できる体制を整え、関係作業員へ周知する。

ウ．報告先を管理者だけの秘密にする。

エ．疑いは終業後にまとめて報告させる。

答え・解説 正答：イ

ア：早期発見の趣旨に反する。

イ：正しい。早期発見のための報告体制整備と周知が求められる。

ウ：関係作業員への周知が必要である。

エ：迅速な対応が必要である。

総合解説：熱中症は初期対応の遅れが重篤化につながるため、報告先・方法を事前に明確にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0135 労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：基礎

暑熱環境の管理でWBGT値を用いる目的として最も適切なものはどれか。

- ア．作業員の熟練度を数値化する。
- イ．工事進捗率を算定する。
- ウ．暑熱負荷を把握し、値に応じて休憩・作業時間・水分塩分補給等の対策を調整する。
- エ．建設機械の燃費だけを示す。

答え・解説 正答：ウ

- ア：技能評価の指標ではない。
 - イ：工程管理の指標ではない。
 - ウ：正しい。WBGTは熱ストレス評価の代表的指標である。
 - エ：機械性能の指標ではない。
- 総合解説：WBGTを把握し、作業強度や衣服等も考慮して予防対策へつなげる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0136 労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：標準

作業員にめまい・大量発汗・応答の鈍さが見られ、熱中症が疑われる。最も適切な対応はどれか。

- ア．作業から離脱させて身体を冷却し、状態を確認しながら必要に応じて医療機関へ搬送する。
- イ．本人が大丈夫と言えば高温環境で作業を続けさせる。
- ウ．一人で休ませ誰も様子を見ない。
- エ．作業終了まで水分を控えさせる。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。迅速な離脱・冷却・医療対応が重要である。
 - イ：判断力が低下している可能性がある。
 - ウ：容態急変の可能性がある。
 - エ：適切な水分・塩分補給等が必要である。
- 総合解説：熱中症が疑われる場合は、作業離脱、冷却、状態確認、必要な医療対応を速やかに行い、一人きりにしない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0137 労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：標準

暑熱作業日に高血圧症等の持病がある作業員を配置する場合の対応として最も適切なものはどれか。

ア．持病は本人だけの問題なので配置へ考慮しない。
イ．薬を服用していれば必ず通常作業に耐えられると判断する。
ウ．暑いほど重作業へ優先配置する。
エ．本人の健康状態を確認し、医師等の意見も踏まえ、必要に応じて作業場所・内容を変更する。

答え・解説 正答：エ

ア：健康状態に応じた配慮が重要である。
イ：個々の状態確認が必要である。
ウ：熱負荷を高める。
エ：正しい。疾病が熱中症発症へ影響する場合は適切な配慮を行う。
総合解説：熱中症予防では環境管理だけでなく、疾病・服薬・睡眠等の個人要因も考慮する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0138 労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：標準

WBGTが高い日の屋外作業計画として最も適切なものはどれか。

ア．工期短縮のため昼休憩をなくす。
イ．涼しい休憩場所を確保し、こまめな休憩・水分塩分補給、作業時間短縮や時間帯変更を検討する。
ウ．喉が渇くまで水分を取らせない。
エ．最も暑い時間帯に重作業を集中する。

答え・解説 正答：イ

ア：リスクを高める。
イ：正しい。複数の対策で暑熱負荷を下げる。
ウ：自覚前から適切に補給することが重要である。
エ：熱負荷が高まる。
総合解説：高WBGT時は、作業時間管理、休憩、補給、遮熱・送風等を総合して熱負荷を下げる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0139 労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：標準

長期休暇明けの作業員を真夏の高温作業へ復帰させる場合の考え方として最も適切なものはどれか。

ア．休暇前に慣れていたので初日から最大負荷で作業させる。
イ．暑熱への順化状況を考慮し、初期は作業負荷や時間を調整する。
ウ．順化は熱中症に関係しない。
エ．水分補給を減らして発汗を抑える。

答え・解説 正答：イ

ア：順化が低下している可能性がある。
イ：正しい。順化が不十分な時期は熱中症リスクが高まる。
ウ：重要な予防要因である。
エ：脱水を招く。
総合解説：梅雨明け、休暇明け、新規入場者等では暑熱順化を考慮し、作業負荷を段階的に調整する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0140 労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：応用

複数班が広い公園内で分散して暑熱作業を行う。最も適切な熱中症管理はどれか。

ア．本部の温度だけ確認し各作業場所は確認しない。
イ．体調確認は終業時に一度だけ行う。
ウ．搬送先は症状が出てから探す。
エ．班ごとの連絡担当、WBGT確認、定時の体調確認、緊急搬送先と手順を定め、全員へ周知する。

答え・解説 正答：エ

ア：場所により日射・風等が異なる。
イ：作業中の変化を早期に把握する必要がある。
ウ：事前準備が必要である。
エ：正しい。分散作業でも早期発見と迅速対応を可能にする。
総合解説：熱中症対策は環境測定、体調把握、報告体制、措置手順、搬送先を一体で計画する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0141 労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：応用

現場で熱中症による救急搬送が発生した後の対応として最も適切なものはどれか。

- ア．本人の体質だけを原因と決めつける。
- イ．事故記録を残さず同じ作業を再開する。
- ウ．全ての屋外作業を永久に禁止する。
- エ．発生時のWBGT、作業内容、休憩、体調、対応手順を検証し、原因に応じて計画・体制を改善する。

答え・解説 正答：エ

ア：環境・作業・管理要因も検証する。

イ：再発防止ができない。

ウ：原因に応じた合理的対策が必要である。

エ：正しい。事実に基づく原因分析と改善が必要である。

総合解説：熱中症災害後は、環境、負荷、休憩、教育、報告・救急手順を検証し、再発防止へつなげる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0142 労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：基礎

建設現場の緊急時対応計画に含める事項として最も適切なものはどれか。

- ア．緊急連絡先、通報手順、避難場所、責任者、応急対応方法。
- イ．通常時の作業能率だけ。
- ウ．休暇申請の方法だけ。
- エ．完成後の維持管理費だけ。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。災害時に迷わず行動できる情報を事前に定める。

イ：緊急時対応に必要な情報ではない。

ウ：緊急時対応の中心事項ではない。

エ：災害時初動に直接関係しない。

総合解説：緊急時対応は、誰が・誰へ・何を連絡し、どこへ避難するかを明確にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0143 労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：基礎

現場で事故が発生した際、救助者が最初に考慮すべき事項として最も適切なものはどれか。

- ア．危険源を確認せず直ちに飛び込む。
- イ．被災者の救助より先に作業を再開する。
- ウ．救助者自身の安全を確保し、二次災害の危険を除去・回避して救助する。
- エ．周囲へ知らせず一人で対応する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：救助者も被災するおそれがある。
 - イ：人命救助・危険排除を優先する。
 - ウ：正しい。無防備な救助で被害を拡大させない。
 - エ：支援・通報が遅れる。
- 総合解説：救助時は通電、崩壊、火災、重機、吊荷等の危険源を確認し、二次災害を防止する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0144 労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：標準

作業中に強い地震が発生した。最も適切な初動はどれか。

- ア．クレーン作業をそのまま続ける。
- イ．作業を中止し、落下・倒壊・崩壊等の危険から離れて安全を確保し、点検後に再開を判断する。
- ウ．揺れが止まれば点検なしで直ちに再開する。
- エ．作業員の安否確認を行わない。

答え・解説 正答：イ

- ア：吊荷・機械が不安定になる危険がある。
 - イ：正しい。揺れの最中と直後は二次災害防止を優先する。
 - ウ：足場・土止め・機械等の損傷確認が必要である。
 - エ：全員の状況把握が必要である。
- 総合解説：地震後は、人員の安否、足場・土止め・仮設物・重機・電気設備等を点検する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0145 労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：標準

掘削・法面作業中に短時間の激しい降雨が続いている。最も適切な対応はどれか。

ア．雨量に関係なく予定工程を優先する。

イ．作業を中止し、土砂崩壊・増水・排水状況を確認して安全が確保されるまで立ち入らない。

ウ．法面直下で雨宿りする。

エ．排水状況を確認せず掘削を深くする。

答え・解説 正答：イ

ア：崩壊等の危険が高まる。

イ：正しい。豪雨時は地盤・法面・排水条件が急変する。

ウ：土砂崩壊時に巻き込まれる危険がある。

エ：浸水・崩壊リスクを高める。

総合解説：悪天候時は、作業中止基準と再開判定を事前に定め、地盤・法面・排水を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0146 労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：標準

現場仮設倉庫で火災を発見した場合の対応として最も適切なものはどれか。

ア．一人で消火できるまで誰にも知らせない。

イ．可燃物を火元の近くへ移動する。

ウ．周囲へ知らせ、通報・避難を行い、安全が確保できる範囲で初期消火を行う。

エ．煙が充満した区域へ防護なしで入る。

答え・解説 正答：ウ

ア：通報・避難が遅れる。

イ：延焼を助長する。

ウ：正しい。人命安全を優先し、無理な消火は行わない。

エ：有毒ガス等の危険がある。

総合解説：火災対応では、警報、通報、避難、初期消火、危険物・電源の安全確保を事前に計画する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0147 労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：標準

作業員が重傷を負い、意識状態が悪い。最も適切な対応はどれか。

- ア．本人を歩かせて様子を見る。
- イ．事故原因の会議を終えてから通報する。
- ウ．現場住所を確認せず救急要請を後回しにする。
- エ．安全を確保して救急要請し、必要な応急手当を行い、現場位置・負傷状況を正確に伝える。

答え・解説 正答：エ

- ア：重篤化するおそれがある。
 - イ：人命救助を優先する。
 - ウ：緊急連絡情報は事前に準備する。
 - エ：正しい。迅速な通報と適切な応急対応が重要である。
- 総合解説：現場所在地、搬入口、救急車誘導方法、近隣医療機関等をあらかじめ整理しておく。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0148 労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：標準

工事進行に伴い当初の避難経路が資材置場と干渉するようになった。最も適切な対応はどれか。

- ア．資材の間を通ればよいとして変更しない。
- イ．安全な代替経路を確保し、表示を更新して作業員へ再周知する。
- ウ．管理者だけ新経路を知ればよい。
- エ．完成まで避難経路を設定しない。

答え・解説 正答：イ

- ア：緊急避難を妨げる。
 - イ：正しい。工事進捗に応じて避難計画も更新する。
 - ウ：作業員への周知が必要である。
 - エ：施工中こそ必要である。
- 総合解説：避難経路・集合場所は、現場条件の変化に応じて常に使用可能な状態へ更新する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0149 労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：応用

台風接近中に停電が発生し、仮設ポンプ停止による浸水と法面崩壊の危険が高まった。最も適切な対応はどれか。

- ア．ポンプ復旧を急ぐため崩壊危険区域へ作業員を入れる。
- イ．作業員を危険区域から退避させ、非常連絡を行い、安全確保後に予備電源・排水・立入規制等を実施する。
- ウ．浸水だけ確認し法面状態を無視する。
- エ．通信が途絶していても単独で復旧作業を続ける。

答え・解説 正答：イ

- ア：二次災害の危険が高い。
 - イ：正しい。人命安全を最優先にし、二次災害を防ぎながら復旧する。
 - ウ：複数の危険が同時進行している。
 - エ：連絡・救援手段の確保が必要である。
- 総合解説：複合災害時は、人命安全、退避、連絡、拡大防止、復旧の優先順位を明確にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21

0150 労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：応用

- 大雨による一時避難後、天候が回復した。作業再開の判断として最も適切なものはどれか。
- ア．法面・掘削部・足場・仮設電気・排水・重機走行路等を点検し、異常を是正して責任者が再開を判断する。
 - イ．雨が止んだ時点で全員が自由に再開する。
 - ウ．目視しやすい箇所だけ確認する。
 - エ．工程遅延があれば安全確認を省略する。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。天候回復だけでなく現場設備・地盤の安全確認が必要である。
 - イ：残留する危険を確認していない。
 - ウ：異常が生じやすい箇所を体系的に点検する必要がある。
 - エ：安全確認を優先する。
- 総合解説：災害後の再開は、気象・地盤・仮設構造物・設備・アクセスの安全条件を確認して判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-21